

令和 4 (2022)年度

シラバス

- 3 年次 -

科目No.	BCS04-3E, BCS04-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	医療倫理学		担当教員 E-Mail	吉本 陵		
基本項目	専 攻	科 目 区 分 人文科学系		単 位 数		履修期間 前 期 (30h)
	理学療法学			選択必修	1 単位	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約		医療従事者にとってのケアに関わる諸問題を倫理的な観点から考察する。 本学のディプロマ・ポリシーである「対象児・者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の 発見・解決に向けて、不断の努力ができる」ことを目指す。				
学修目標 到達目標		1. ケアを主題とするテキストを正確に理解し、自分の言葉で説明できるようになる。 2. ケアを職業とすることに内在する困難を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。 3. 障害当事者が障害と向き合うことを援助する際の問題を理解し、自分の言葉で説明できるよう になる。				
対面授業の 進め方		講義形式で行う。事情が許せばグループワークを組み込む。				
遠隔授業の 進め方		基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、office365 stream に動画をアップロードす る。				
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. ガイダンス・イントロダクション				「ケア」という言葉の意味を調べる。		
2. キュアとケア				授業内容の振り返り		
3. 患者の痛みに対するケア（1）患者の痛みと自分の痛み				授業内容の振り返り		
4. 患者の痛みに対するケア（2）痛みの共有の（不）可能性				授業内容の振り返り		
5. 言葉の喪失に対するケア（1）障害受傷				授業内容の振り返り		
6. 言葉の素質に対するケア（2）障害受傷からの立ち直り				授業内容の振り返り		
7. 「傾聴」としてのケア				授業内容の振り返り		
8. 生活の中のケア（1）ケアの根拠				授業内容の振り返り		
9. 生活の中のケア（2）「食べる」ことの意味				授業内容の振り返り		
10. 生活の中のケア（3）医療の外側でのケア				授業内容の振り返り		
11. 障害受容に対するケア				授業内容の振り返り		
12. 障害受容再考（1）「価値の転換」をめぐって				授業内容の振り返り		
13. 障害受容再考（2）「障害受容」を使うセラピスト				授業内容の振り返り		
14. 障害受容再考（3）「障害受容」を使わないセラピスト				授業内容の振り返りと試験の準備		
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				学修した範囲について復習を必ずすること		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト30%	□レポート	%	□定期試験 70%	□その他 %
	基準等	授業内容の理解度を問う課 題を与える。			授業内容を踏まえて自 ら考察する問題を与え る。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	なし。					
参考図書	適宜指示する。					
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目No.	BCS06-3E		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	教育学Ⅱ		担当教員 E-Mail	中 裕 俊 介 nakamatsus@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	人文科学系		選択必修	2 単位	前 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連	高等学校で1 年間（保健体育科目）、専門学校で 13 年間（トレーニング理論等）の勤務経験のある教員がその経験を生かして、学校現場にて実施されている教育を踏まえた講義を行う。					
授業内容の要約	臨床現場においてセラピストは、後輩、他職種、患者と家族、実習生など、様々な対象者に教育を行う場面に遭遇する。本講義では、教育学Ⅰにて学んだ教授方法や学習方法、動機付けなどの技法について事例を通して修得する					
学修目標 到達目標	1. 教育における指導方法や学習方式の多様性を説明できる 2. 対象者に合わせた分かりやすい資料作成ができる 3. 学修目標と動機づけ、教育評価について説明できる					
対面授業の 進め方	演習形式にて実施する。Microsoft Power Point や配布プリントに沿って解説を行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft Teams を利用して時間割と同時刻にて実施する。Microsoft Power Point や配布プリントに沿って解説を行う。その場合、毎回、課題の提出をもって出席とする。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30 分以上	
1. オリエンテーション、臨床教育学について				予習：対話法、実物教授、直感教授について		
2. 指導方法・学習方式①：対話法、実物教授、直感教授、他				予習：講義形式、討論形式、調査形式について		
3. 指導方法・学習方式②：講義形式、討論形式、調査形式、他				予習：発散法について		
4. アクティブラーニングの方法と実践①：ブレンストリング、KJ 法				予習：収束法について		
5. アクティブラーニングの方法と実践②：メモリーツリー				復習：アクティブラーニングについて		
6. アクティブラーニングの方法と実践③：私の名前、語呂合わせ				予習：講義・実習・演習について		
7. 授業計画と授業準備：講義・実習・演習				予習：PPT の使用方法について		
8. 授業資料の作成①：PPT の基本操作				復習：PPT の使用方法について		
9. 授業資料の作成②：PPT の作成				復習：PPT の使用方法について		
10. 授業資料の作成③：PPT の編集				予習：講義の組み立てについて		
11. 授業の実施①：講義形式				予習：実習の組み立てについて		
12. 授業の実施②：実習形式				予習：教育評価について		
13. 教育評価①：診断的評価、形成的評価、総括的評価、他				予習：学習者評価について		
14. 教育評価②：学習者評価、プログラム評価、他				復習：プログラム評価について		
レポート						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				レポート内容に対するフィードバックを行う		
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	■レポート 50%	□定期試験 0%	□その他 0%	
	基準等	講義内において取り組んだ課題の評価を行う	講義内で提出したレポートを評価する			
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	なし	なし		なし		なし
参考図書						

履修要件等	「教育学Ⅰ」の単位を修得している学生が望ましい		
研究室	3号館2階 第26研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 16：20～17：30

科目No.	BHS03-3E		授業形態	講義	開講年次	3 年次	
授業科目名	ダンスレクリエーション		担当教員 E-Mail	松川 恵梨子 / 松永 美規			
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間	
	理学療法学	健康体育系		選択必修	1 単位	前 期 (16h)	
	作業療法学						
	言語聴覚学						
教員の実務経験と 授業内容の関連	スポーツ庁・厚生労働省後援のダンス指導研修会研修会にて講師（JDAC 認定講師）を務める教員が、研修会内容に基づき指導する。						
授業内容の要約	以下の 2 点を目的とした科目である。 ・ダンスの理論を理解し、指導の基礎を実践できるようになること。 ・ステップやリズムの基本を身に付け、身体の仕組みについて理解を深め、指導に活かせるようにすること。						
学修目標 到達目標	1. ダンス理論について説明できる。 2. ダンス指導の進め方、相手とのコミュニケーションの取り方、安全対策、指導者マナー向上について説明できる。 3. ダンスの指導ができる。						
対面授業の 進め方	講義、実技、ペアワーク、グループワーク等						
遠隔授業の 進め方							
授業計画				授業時間外に必要な学修	30 分以上		
1. オリエンテーション、リスクマネジメント							
2. アイスブレイク、ストレッチ、アイソレーション、身体の使い方							
3. ダンス理論							
4. フォークダンス							
5. 現代的なリズムのダンス							
6. リズムダンス創作							
7. 創作ダンス							
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	10 %	□定期試験 %	□その他 90 %
	基準等			・授業内で提出するレポートの完成度を評価する			・学んだ内容を理解し、実践できているかを評価する。 ・グループワークにおける貢献度を評価する。
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
	ダンス教育振興連盟 JDAC	ダンス指導研修会 I・II が 1 冊でしっかりわかる本				2021 年	
参考図書							
履修要件等							
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FBM12-3E		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	形態・機能学特論生理領域		担当教員 E-Mail	坪田 裕司 tsubotay@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び 身体の発達		選択必修	1 単位	後 期 (16h)
	作業療法学					
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	1 年次に形態・機能学で学んだ人体の細かな機能と、それらを統合する生体機能の自己調節、恒常性の維持機構、適応について、さらに詳しく学習し、特に運動生理学と生きている仕組みを総合的に理解できるように学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 筋運動と利用エネルギーについて説明できる 2. 運動強度と酸素摂取量、心拍数の関係を説明できる 3. 栄養とエネルギー代謝、呼吸と循環について説明できる 4. 老後の身体活動性を維持する機序と必要性を説明できる					
授業形態 授業の進め方	教科書中心に講義形式で進めるが、随時課題を配布してお互いに説明し合うアクティブラーニング(グループワーク) 時間も取り入れて進める。始めにまとめ資料を配布し、スライド等も取り入れてできるだけ分かりやすく説明する。あらかじめ資料をよく読んで予習し、疑問点を明らかに準備して授業に臨むこと。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 運動と筋（高齢化社会と運動、筋細胞の種類、骨格筋の構造）				形態機能学整理領域 I・II に配布したまとめ資料の範囲の復習		
2. 運動と筋、身体運動の仕組み（興奮収縮連関、運動制御、筋感覚）				形態機能学整理領域 I・II に配布したまとめ資料の範囲の復習		
3. 呼吸と循環、酸素負債（筋の利用エネルギー、クレアチニン酸機構、乳酸性嫌氣的エネルギー酸性機構、好氣的エネルギー酸性機構、呼吸商、循環の調節、呼吸の調節、無酸素性作業閾値）				形態機能学整理領域 I・II に配布したまとめ資料の範囲の復習		
4. 栄養とエネルギー代謝、動作と利用エネルギー、（基礎代謝、安静時代謝、RMR、METs、エクササイズ Ex、食品カロリー、身体活動）				まとめ資料の範囲の復習に加え講義課題の復習		
5. 最大酸素摂取量（運動負荷、心拍数、酸素摂取量、最大心拍数、体力、VO2max の測定法、推定法）				まとめ資料の範囲の復習と講義課題の復習		
6. 加齢変化と筋力維持（廃用症候群、トレーニングの原則・効果、運動刺激				まとめ資料の範囲の復習と講義課題の復習		
7. 運動負荷（運動負荷と利用エネルギー、運動の目的、運動処方の設定、リハビリテーションと運動負荷）				まとめ資料の範囲の復習と講義課題の復習		
定 期 試 験 （ 期 末 レ ポ ー ト ）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 5 %	■レポート 5 %	■定期試験 85 %	■その他 5 %
	基準等	項目により課題を出す	項目により課題を出す	試験は国試形式および計算問題・文章筆頭問題から出題する	講義への参加度を重視する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	樋口満監修	栄養・スポーツ系の運動生理学		南江堂	2018
参考図書	特に指定しない				
履修要件等	形態機能学整理領域 I・II を履修済みあるいは履修中であること。				
研究室	1 号館 5 階 第 11 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16 : 20～17 : 50 ※以外メールで調整	

科目No.	FCM17-3E, FCM17-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	救急医学特論		担当教員 E-Mail	岡田 守弘 okadam@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		選択必修	1 単位	前 期 (16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必修		
教員の実務経験と 授業内容の関連	大学付属病院救命救急センター及び急性期病院救急科での臨床経験のある教員が、救急疾患の初期対応について講義する。					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これまで履修した臨床医学各教科の総まとめとなる科目である。 医療機関では高齢者や基礎疾患をもつ患者と接することが多く、患者が目の前で救急疾患を発症することはまれではない。このため、PT、OT、ST も救急疾患に対する適切な初期対応が求められる。本講座では救急患者に対する初期の観察、ケアを中心に解説する。また、本講座では、一次救命処置の実技指導（日本赤十字社救急法短期講習）も行い、本講座修了者には日本赤十字社救急法短期講習受講証が授与される。					
学修目標 到達目標	1.心肺蘇生ができる 2.バイタルサインのチェックと評価ができる 3.救急疾患に対する適切な初期対応ができる					
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。 心肺蘇生については実技指導（日本赤十字社救急法短期講習） も行う。					
遠隔授業の 進め方	TEAMS による遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り質疑応答も行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. なぜ救急医療学を学ぶのか（教科書 p10～11） 救急医療学総論（教科書 p64～71）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
2. 救急医療での主な病態（教科書 p72～79）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
3. リハビリテーション実施時の留意点、救命救急・集中治療室でのリハビリテーション（教科書 p86～95）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
4. 高度急性期リハビリテーションの実践（教科書 p96～103）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
5. 在宅での安全管理と緊急時の対応（教科書 p104～111）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
6. 一次救命処置実習、日本赤十字社救急法短期講習①（教科書 p112～122）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
7. 一次救命処置実習、日本赤十字社救急法短期講習②（教科書 p112～122）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
8. 定 期 試 験						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 80 %		■その他 20 %
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。		授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	内山靖ら	リハベ－シツク 安全管理学・救急医療学	医歯薬出版	2021
参考図書	特に指定しない			
履修要件等	一般臨床医学、内科学、臨床神経学を履修しておくことが望ましい。			
研究室	1号館5階 第15研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 10:40～12:10	

科目No.	FHW06-3R, FHW04-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	地域包括ケアシステム・リハビリテーション論		担当教員 E-Mail	寺山 久美子他 terayamak@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	保健医療福祉とリハビリの理念		必修	1単位	後期(16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と授業内容の関連	担当教員(寺山)は、総合リハビリテーションセンター(東京都心身障害者福祉センター)にOTとしてまたリハマネージャーとして17年間勤務し、そこで障害児・者への多職種連携による地域支援・訪問リハ・自立支援・就労支援等の実践経験あり、伊藤は初台リハビリテーション等での回復期リハ・訪問リハ・リハマネジメントの経験あり、また老健施設緑ヶ丘での訪問指導を実践中、関本はかなえるリンクでの訪問リハや就労指導・リハマネジメント等を実践中、逢坂は大東市役所での地域包括ケア支援及びリハマネジメントを実践中。本講義はこうした経験を生かして、地域包括ケア・地域リハ支援の講義を行う。					
授業内容の要約	学生は、介護保険制度の一環として構築された地域包括ケアシステムとは何か、またその中で実施・模索されている高齢者・障害者等当事者主体の多職種連携・自立支援・リハ職の役割等の総論を学び、次に3人の外来実務講師による実践編から、地域包括ケアシステムの中の地域リハビリテーションのあり方と療法士の役割を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1 地域包括ケアシステムについて説明出来る 2 地域連携、多職種連携とは何か説明できる 3 高齢者・障害児者の自立支援について説明できる 4 地域包括ケアシステムにおけるリハとリハ職の役割を説明できる 5 在宅訪問、通所リハ、介護予防等地域におけるリハ実践を説明できる					
対面授業の 進め方	寺山・野村による総論、外部講師3名による講義とグループディスカッション、から成る					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office 365 の Teams を使用し、双方向の授業を行う。授業のオンデマンド配信と課題配信を組み合わせで行う場合もある。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 総論1 ; 地域包括ケアシステムと地域リハの概略(寺山)				左記を「リハビリテーション概論」「障害者福祉論」「関係法規」等の関連授業との関連で想起し、その概要をノートに記しておく		
2. 総論2 ; 地域連携・多職種連携・連携マインドとリハ(寺山)				左記に対して「自分の答」を考えておく		
3. 総論3 ; 地域包括ケアシステムー障害児者支援(野村)				障害児 者における地域包括ケアを調べ考える		
4. 実践編1 ; 生活期のリハビリテーションー訪問リハ(日本訪問リハ協会 伊藤)				左記についてネットで情報をつかんでおこう		
5 実践編2 ; 通所リハ・訪問リハ・障害児支援の最前線で(かなえるリンクOT 関本)				左記についてネットで情報をつかんでおこう		
6. 実践編3 ; 大東市における総合リハ・地域連携のかたち(大東市役所PT 逢坂)				大東市の介護予防等の実践をネットで調べておく		
7 総論4 : 共生社会、自助・互助・共助・公助、自立支援、リハマネジメント等(寺山)				1－6の講義を理解しておく		
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(期末レポートの結果解説等)						

成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 100%	□定期試験 %	□その他 %
	基準等		「レポートの課題」は7回目の授業で提示する。与えられた課題を講義内容と絡めて独自性も含めて深く考察しているかがポイント。可能であれば手書きを要求するので、文章や文字も採点対象にする		
教科書	著者		タイトル	出版社	発行年
			適当な著作がないので特に定めない		
参考図書	日本リハビリテーション医学会監修	リハビリテーションと地域連携・地域包括ケア	診断と治療社	2013年	
履修要件等	3年次臨床実習に参加可能な学生が望ましい				
研究室	1号館1階 寺山研究室		オフィスアワー	毎週水曜日13:00:~14:30	

科目No.	FSW06-3E, FSL06-3E		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	障害者福祉論		担当教員 E-Mail	野村 和樹 nomurak@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	保健医療福祉とリハビリの理念		選択必修	1 単位	後 期 (16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約		障がい者の生活実態・障がい者福祉の歴史・障害の概念といった障がい者福祉の概要を解説する。また、近年「障害者の権利に関わる条約」を批准したことに伴い、法令をはじめ通達、制度等は大幅に転換した。それをふまえ障がい児・者に関わる様々な法制度、支援の仕組み・実践の現状と課題について講義する。 社会福祉学で学修した内容が障害者福祉の制度施策にどのように反映されているか確認できる。この科目で学修することで、地域における包括的ケアに多職種と連携が図れる また、障害の有無に関わらずスポーツ活動ができるよう、障害に応じた競技規則や実施方法についても解説する。				
学修目標 到達目標		1. 障害の概念・障害の特性・障がい者の生活実態が把握できる 2. 障がい児・者に関する法制度の知識を習得し、支援について理解できる 3. 障害のある人たちの人権と尊厳を尊重する支援のあり方を療法士として模索する姿勢が習得できる 4. 障害に応じた競技規則や実施方法が理解できる				
対面授業の 進め方		原則としては講義形式で行うが、療法士および障がい者スポーツ指導員としての支援のあり方を模索できるよう、グループディスカッションの時間を設ける。従って、傍観者的に授業を受ける態度ではなく、自ら思考され表現されることを望む。				
遠隔授業の 進め方		時間割にある対面授業の時間に、ライブにて遠隔授業を行う。ディスカッションについては、レポートで対応する。通信障害、正当な理由により、その時間に受講できなかった場合は、録画されたものを視聴しレポート提出を持って出席とする。したがって、原則授業の進め方は対面授業に同じ。レジュメについては、原則登校される日に配付。				
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 障がい者を取り巻く社会情勢と障がい者福祉の思想				障がい者福祉の思想をまとめる		
2. 障害の理解Ⅰ - 1 身体障害 1 身体障害者福祉法				身体障害者福祉法をまとめる		
3. 障害の理解Ⅰ - 2 身体障害 2 身体障害の定義と理解				身体障害の定義より身体障害を理解する		
4. 障害の理解Ⅱ 知的障害 知的障害者福祉法と障害の理解				知的障害を理解する		
5. 障害の理解Ⅲ 精神障害 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律と障害の理解				精神障害を理解する		
6. 障害の理解Ⅳ 発達障害 発達障害者支援法と障害の理解				発達障害を理解する		
7. 障がい者スポーツ 障害に応じた競技規則や実施方法				競技規則と障害の関係をまとめる		
8. 障がい者施策				障がい者施策を整理する		
成績評価方法	項目	■課題 30%	□レポート %	■定期試験 70%		■その他
	基準等	講義内課題		全般に渡り理解度をはかる。		

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	各項目に応じてレジュメを配布する			
参考文献	講義内で適宜紹介する			
履修要件等	社会福祉学，社会保障制度 を履修されていることを望む			
研究室	1号館4階第1研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:00～13:00	

科目No.	FHW05-3R, FHW07-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	就労支援学		担当教員 E-Mail	岸村 厚志・井上 貴雄 kishimuraa@kawasakigakuen.ac.jp inouet@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	社会福祉とリハビリの理念		必修	1 単位	後 期 (16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連	臨床現場の実務経験を基に、職業関連活動及び就労支援活動の評価、自立支援に向けた法的根拠、障がい者に対する社会資源、制度の情報支援の利用方法（ジョブコーチの利用など）、サポートシステムの現状について講義を行う。職業適性検査などを体験する。					
授業内容の要約	人の社会生活を考えるときに最も基本的な営みである就労・職業を理解し、医学的知識に基づく障がいの理解と就労における関連職種の役割を学ぶ。併せて就労支援活動の評価、法的根拠、障がい者に対する社会資源、制度の情報支援の利用方法、サポートシステムの現状についての基礎知識を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 就労・職業の意味を探り、就労・職業技能の発達について理解できる 2. 職業リハビリテーションの概念について理解できる 3. 障がい別の就労支援活動における関連職種の役割について述べることができる 4. 法制度、及び各領域の就労支援について理解できる					
対面授業の 進め方	講義を中心として、演習（検査等を含む）を適宜加える 対象者の就労・職業生活に関わる内容なので、社会情勢や出来事の事象に関心をもつこと					
遠隔授業の 進め方	teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30 分以上	
1. 職業関連活動概説 働くということ・働き方改革の時代				・ 配布した資料を必ず読み、ポイントをまとめておくこと		
2. 障がい者と職業				・ また、働く意義について考えること		
3. 就労支援に関わる職業評価について						
4. 障がい別就労支援の実際 視覚障害						
5. 障がい別就労支援の実際 聴覚・平衡機能・高次脳機能・内部障害						
6. 障がい別就労支援の実際 肢体不自由						
7. 障がい別就労支援の実際 精神障害領域における就労について（井上）						
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 100 %	□定期試験 %	□その他 %	
	基準等		・ 障害者が就労（働く）する意義について			

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	なし			
参考文献	平賀昭信・岩瀬義昭 編集	作業療法学全書第 12 巻「作業療法 技術学 4 職業関連活動」	協同医書出版	2016
	石川齊・古川宏 編	「図解 作業療法技術ガイド第 4 版」	文光堂	2021
	松為信雄	「キャリア支援に基づく職業リハ ビリテーションカウンセラー 理論と実際」	ジアース教育新社	2021
	長崎重信監修 里村恵子編集	「改訂第3版 作業療法学ゴールド マスターテキスト 作業療法学概 論」	メジカルビュー社	2021
履修要件等				
研究室	1 号館 1 階 作業療法専攻長室	オフィスアワー	毎週月曜日 16:20～17:00	: 他

科目No.	SPT25-3E, SOT22-3E, FHW11-3E		授業形態	実習	開講年次	3 年次
授業科目名	園芸療法実習 I		担当教員 E-Mail	田崎 史江 tazakif@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	1 単位	前 期 (30h)
	作業療法学	作業療法治療学				
	言語聴覚学	保健医療福祉とリハビリの理念				
教員の実務経験と 授業内容の関連	園芸療法士としての経験を持つ教員が、実践的な園芸療法を指導する。					
授業内容の要約	園芸療法士となるために、園芸療法実習を行い実践から学ぶ。療法の対象者の情報収集、ニーズや課題から目標を設定、園芸療法プログラムの立案、観察方法、特性のとらえ方を体験する。					
学修目標 到達目標	1. 園芸療法の対象者のニーズや課題をあげることができる 2. 対象者のニーズや課題に沿った目標設定ができる 3. 植物や園芸作業を用いたアプローチ・サポート方法を考え、実践できる					
授業形態 授業の進め方	プリントやワークシートなどの資料を適宜配布し、講義と実習で進めていく。実習では振り返りの時間を取り、理解の確認を行う。本科目は園芸療法実習Ⅱと連続して授業を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. オリエンテーション 授業の進め方・授業目標確認・チーム設定				園芸療法関連授業専用のファイルを準備する		
2. 園芸療法プログラム実習 1：園芸療法プログラム実習の概要 実践方法の説明、プログラム評価方法				・園芸療法評価に関する文献を読む ・高齢者に適した療法プログラムを考える		
3. 園芸療法プログラム実習 2：計画				・園芸療法プログラムの内容を把握する		
4. 園芸療法プログラム実習 3：計画				・実践時の自分の動きをイメージする		
5. 園芸療法プログラム実習 4：計画				・評価項目を把握する		
6. 園芸療法プログラム実習 5：学生を対象に演習				・プログラム実習時の対象者と自分との動きを		
7. 園芸療法プログラム実習 6：学生を対象に演習				振り返り、目的を果たせたか、対象者への影		
8. 園芸療法プログラム実習 7：学生を対象に演習				響・自分がもたらした療法的効果を考える		
9. 園芸療法プログラム実習 8：高齢者を対象に実践				・園芸療法対象者の評価、評価の共有と療法プ		
10. 園芸療法プログラム実習 9：高齢者を対象に実践				ログラムの見直し・修正を考える		
11. 園芸療法プログラム実習 10：高齢者を対象に実践						
12. 園芸療法プログラム実習 11：プログラム実習の全体の振り返り				・実習の総評		
13. 園芸療法実践現場・公園・緑地等の紹介				園芸療法実践現場を検索する		
14. 授業の総復習とレポート課題と確認試験のための準備				授業で使用した資料・課題をまとめる		
定 期 試 験 (レポート課題)						
15. 総括及びフィードバック (レポート課題の解説)				園芸療法の理解と知識の修正を行う		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 40 %	■定期試験 50 %	■その他 10 %	
	基準等		園芸療法プログラム評価記録を課す。	確認試験を実施する。園芸療法プログラム作成や評価に関する講義内容全般の理解度を試験する	授業参加態度により減点する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない。各回において講義資料やワークシートを配布する。					
参考文献	山根寛 ほか	「園芸リハビリテーション」		医歯薬出版株式会社		2003
	山根寛	「ひとと植物・環境 療法として園芸を使う」		青海社		2009
履修要件等	「園芸療法」「園芸論」「ガーデニング」が履修済みであることが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸論」「園芸療法」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。					
研究室	1 号館 5 階 第 2 共同研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:00～13:00		

科目No.	SPT26-3E, SOT23-3E, FHW12-3E		授業形態	実習	開講年次	3 年次
授業科目名	園芸療法実習Ⅱ		担当教員 E-Mail	田崎 史江 tazakif@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	1 単位	前 期 (30h)
	作業療法学	作業療法治療学				
	言語聴覚学	保健医療福祉とリハビリの理念				
教員の実務経験と 授業内容の関連	園芸療法士としての経験を持つ教員が、実践的な園芸療法を指導する。					
授業内容の要約	園芸療法を行うために、植物の栽培・管理などの基礎的園芸作業の理解と技術を習得する。季節に応じた植物の選択と育て方、園芸療法プログラムの計画・実践を通じて植物の利活用を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 園芸植物の栽培・管理ができる 2. 園芸療法に用いる植物情報の収集・整理をし、春夏野菜の栽培計画書の作成ができる 3. 園芸植物の利活用方法を提案・指導ができる					
授業形態 授業の進め方	本科目は「園芸療法実習Ⅰ」と連続して授業を行う。園芸療法プログラムを主軸に、植物材料の利用法、選択法、栽培管理 等、実践を通して学んでいく。資料を適宜配布し、講義と実習で進めていく。受講者は作業に適した服装（初回講義時に連絡）で参加すること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. オリエンテーション 実習現場の下見、準備物の確認、育てる野菜の決定、野菜の栽培方法について調べる			・第2 イネーブルガーデンの位置を把握する			
2. 第2 イネーブルガーデン：使用する道具類と畑作業の理解、畑作り・土作り			作業に必要な個人で使う物品を揃える			
3. 第1 イネーブルガーデン：春夏一年草の種まき、ハーブ苗定植、植物の利活用（押し花）			・授業内で次週の授業の案内を行うので、それに沿って予習すること ・天候により、授業内容を変更することがある ・基本的にはチーム単位で行動する			
4. 第2 イネーブルガーデン：野菜苗の定植、畑の整備 他						
5. 第2 イネーブルガーデン：野菜苗の手入れ、レイズドベッドの作成 ①						
6. 第2 イネーブルガーデン：野菜苗の手入れ、レイズドベッドの作成 ②						
7. 第2 イネーブルガーデン：野菜苗の手入れ、畑の整備、除草 他 サツマイモのつる定植						
8. 第2 イネーブルガーデン：ウメの収穫 →ウメの加工						
9. 第2 イネーブルガーデン：野菜苗の手入れ、畑の整備、除草 他 植物の繁殖（挿し木 等）						
10. 第2 イネーブルガーデン：野菜苗の手入れ、畑の整備、収穫、除草 他						
11. 第2 イネーブルガーデン：野菜苗の手入れ、畑の整備、収穫 除草 他						
12. 草花や野菜の年間計画と栽培管理について						
13. 園芸療法実践現場・公園・緑地等の見学（未定）			関西の園芸療法実践施設を調べておく			
14. 畑の整備、片づけ、道具の手入れ 他			臨床の場での園芸利用について考える			
定 期 試 験 （授業内 確認試験）						
15. 総括及びフィードバック（確認試験の解答・解説）			試験内容の振り返り、理解と知識の修正を行う			

成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 60%	■その他 40 %
	基準等			授業内容の確認試験を行う。	欠席・遅刻、授業参加態度、作業態度により減点する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	藤田智	「成功するコンテナ菜園」		NHK 出版	2013
参考文献					
履修要件等	「園芸療法」「園芸論」「ガーデニング」が履修済みであることが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は「園芸療法」「園芸論」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。				
研究室	1号館5階 第2共同研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:00～13:00	

科目No.	SGR02-3R		授業形態	演習	開講年次	3・4年次
授業科目名	卒業研究		担当教員 E-Mail	中村 美砂 / 卒業研究担当教員 nakamuram@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分 卒業研究		単位数		履修期間
	理学療法学			必修	3 単位	3年後期
	作業療法学					4年前期
	言語聴覚学					(45h)
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約		これまでに学んだりハビリテーション領域における総合的な知識を集大成し、一つの研究テーマに取り組む。「自分で問題を発見し、その解決法を見だし、問題を解決する」ためのスキルや方法、研究倫理の規範について、本科目を通じて学ぶ。さらに研究成果を研究会、学会などで発表するための表現法、プレゼンテーション法を修得する。				
学修目標 到達目標		1. 研究テーマを論理的・多面的に理解することができる 2. 問題解決のプランに従い、計画的に研究を遂行することができる 3. 研究内容を口頭発表することができる 4. 倫理規範を遵守することができる				
対面授業の 進め方		興味のあるテーマについて、関連論文抄読会の準備を行い、ゼミ形式で検討を加え、研究倫理についても学びながら、研究計画を立案・実施していく。多くは実験を伴うテーマであり、結果の整理、統計的評価、研究のまとめを通して学会発表レベルに仕上げることを目標とする。				
遠隔授業の 進め方		Teams やメールなどによる担当教員の指導の下で行う。				
授業計画				授業時間外に必要な学修		600 分以上
研究のスケジュールは、研究テーマによって異なり、かつ、研究の進展にあわせ動的に見直しされることになる。下記に授業計画のモデルケースを示す。 1. 文献調査 最新の研究動向を文献などにより調査し、研究上の問題点などを洗い出す 2. 研究方針の決定 研究遂行のための研究方針を議論し決定する 3. 研究計画・方法の決定 問題を解決するための方法・方式を議論し決定する 4. 研究倫理申請書の作成・提出 研究倫理の基本的概念を理解して、倫理委員会への申請書類を作成、提出し審査を受ける 5. 実践 問題を解決するための調査、実験を行う。担当教員と議論しつつ進める 6. 結果・考察 調査、実験により得られた結果をもとに図表などにまとめ、客観的に評価・考察する 7. 卒業研究の発表 研究内容をスライドにまとめ、発表する				これまで学修してきたことを復習しながら、主体的に目標を達成していく科目であるため、多くは授業時間外学修が主体となる。		

成績評価方法	項目	■研究態度 50%	■卒業研究 25%	■研究発表 25%	□その他 %
	基準等	主査1名(指導教員)が、研究態度の評価を行う。	主査1名および副査2名の計3名が、卒業研究の内容についての評価を行う。	主査1名および副査2名の計3名が、研究発表の評価を行う。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	指導教員による紹介				
	文献検索等により必用な文献を得る				
参考図書					
履修要件等	開始前に必ず卒業研究の説明会を受講すること。				
研究室	各指導教員 研究室		オフィスアワー	各指導教員 オフィスアワー	

科目No.	SRP04-3E, SRO05-3E, SRM04-3E		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	健康増進・介護予防フィールドワーク		担当教員 E-Mail	今岡 真和 imaokam@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		選択必修	1 単位	前 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と授業内容の関連	1 次・2 次予防のコンセプトを基に、地域在住高齢者を対象とした運動教室や疫学調査を多年に渡り実施している教員が、公衆衛生的な重要性を踏まえて健康増進・介護予防の実践を学ぶ					
授業内容の要約	わが国では非感染性疾患は増加している状況であるが、生活習慣などを改善することで、これらの疾患を予防することが可能である。そのため、療法士が専門職として正しい健康増進・介護予防に関する知識を身に付け未病者の健康づくりを支援する実践方法を知ることが出来る。					
学修目標 到達目標	1. ライフサイクルに対応した健康増進の意義と目的が理解できる 2. 地域在住高齢者を対象とした健康増進と介護予防の実践が模倣で可能となる 3. フレイル・サルコペニア・MCI 予防を目的とした介入方法を実践できる					
対面授業の 進め方	・講義とグループワーク、プレゼンテーションを中心に授業を進める。 ・公衆衛生、健康増進に関する書籍を事前に読むことを推奨する					
遠隔授業の 進め方	Teams を活用してリアルタイム配信とオンデマンド配信を活用して、学習習熟が円滑に行えるように実施する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		10 分以上	
1. 健康増進と介護予防の概要（健康日本 21 など）			教科書 P3-5 スライド資料			
2. 老年症候群と介護予防、これからの介護予防、地域包括ケアシステム			教科書 P9-20			
3. 住民主体の介護予防実践 世代間交流 柏モデルの実践 1			教科書 P39-144			
4. 住民主体の介護予防実践 世代間交流 柏モデルの実践 2			教科書 P39-144			
5. 地域におけるスマートシティ化とウェアラブルデバイス 1			教科書 P161-499 スライド資料			
6. 地域におけるスマートシティ化とウェアラブルデバイス 2			教科書 P161-499 スライド資料			
7. 地域における ICT 技術とヘルステックのソリューション 1			教科書 P161-499 スライド資料			
8. 地域における ICT 技術とヘルステックのソリューション 2			教科書 P161-499 スライド資料			
9. 地域に実装する運動プログラムの作成 1			教科書全般とスライド資料 目的 意義			
10. 地域に実装する運動プログラムの発表 1 (6 月 6 日 貝塚市体育館)			教科書全般とスライド資料 実践 1			
11. 地域に実装する運動プログラムの作成 3			教科書全般とスライド資料 プレ実践			
12. 地域に実装する運動プログラムの発表 2 (貝塚市中央公民館)			教科書全般とスライド資料 実践 2			
13. フィールドワークの実施（運動プログラムの実施）			地域の施設にて実施（予定）※社会情勢による			
14. フィールドワークの振り返り			修正点 今後の改善点、良かった点の振り返り			
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 50%		■その他 50%
	基準等			1～8 の講義内容を範囲としたテストを行う		運動プログラム作成の取り組みやプログラム内容を評価する
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	鈴木隆雄	完全版 介護予防マニュアル		法研		2015 年
参考図書						
履修要件等						
研究室	研究科棟 4 階 143 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12：00～13：00		

科目No.	SPT20-2E, SOT17-2E, SRM05-2E		授業形態	実習	開講年次	3 年次
授業科目名	スポーツリハビリテーション 実習		担当教員 E-Mail	久保 峰鳴・小太 武陸・大前 千代子 kubot@kawasakigakuen.ac.jp komatut@kawasakigakuen.		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	1 単位	前 期 (30h)
	作業療法学	作業療法治療学				
	言語聴覚学	地域・予防医学的リハビリテーション				
教員の実務経験と 授業内容の関連	スポーツ選手に対する健康支援サポートの方法について、スポーツ現場での経験がある教員にて講義と実技を行う。					
授業内容の要約	スポーツ特有の傷害(外傷と障害)を理解し、適切なリハビリテーションの方針を知るとともに、スポーツ外傷・障害の発生機序を理解することで健康増進における理学療法のあり方を考察する。障がいのある人との交流を通じ、障がい者にとってのスポーツの必要性、意義や価値について学ぶと同時に障がい特性に応じたコミュニケーション方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. スポーツリハビリテーションの必要性、意義について理解できる 2. 損傷部位から受傷機転を推論できる 3. パフォーマンスを向上させるための方法を列挙できる 4. 障害構造から適切なトレーニング方法を選択できる 5. 障がい者にとってのスポーツの必要性、意義について理解できる 6. 各種障がい特性に応じたスポーツの工夫の基本的な視点を身につける					
対面授業の 進め方	講義は、教科書や講義内で配布する資料を中心に解説し、必要であれば実技を行うので、実技が可能な服装で出席すること。トレーニングや運動療法の手技を理解するため、理論背景の解説と実技練習を取り入れる。実技は、自分たちの自習時間を使って練習して体得するように努力すること。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、Teams によるオンライン形式で行う。講義形式の授業はスライド等にて説明し、実技は動画や模倣にて説明する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. スポーツリハビリテーションの概要			運動学 (力学) を復習しておくこと。			
2. スポーツ傷害の評価とリハビリテーション (肩関節)			授業内容を復習し理解する			
3. スポーツ傷害の評価とリハビリテーション (肘・手関節)			授業内容を復習し理解する			
4. スポーツ傷害の評価とリハビリテーション (股関節・体幹)			授業内容を復習し理解する			
5. スポーツ傷害の評価とリハビリテーション (膝関節)			授業内容を復習し理解する			
6. スポーツ傷害の評価とリハビリテーション (足関節)			授業内容を復習し理解する			
7. スポーツ外傷に対するテーピング技術①			授業内容を復習し理解する			
8. スポーツ外傷に対するテーピング技術②			授業内容を復習し理解する			
9. 全国障害者スポーツ大会の概要			授業内容を復習し理解する			
10. 障がいのある人との交流			授業内容を復習し理解する			
11. 障がい者スポーツ推進の取り組み			授業内容を復習し理解する			
12. 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫①			授業内容を復習し理解する			
13. 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫②			授業内容を復習し理解する			
14. コミュニケーションスキルの基礎			授業内容を復習し理解する			
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	□レポート %	■定期試験 50%	□その他 %	
	基準等	課題として実技テストを実施する。				

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	臨床スポーツ医学 編集委員会	第2版 「スポーツ外傷・障害の理 学診断・理学療法ガイド」	文光堂	2015
参考図書	Donald A. Neumann	第3版 「筋骨格系のキネシオロジ ー」	医歯薬出版	2018
履修要件等				
研究室	1号館5階 第3共同研究室（久保） 1号館4階 第3研究室（小俣）	オフィスアワー	毎週月曜日 12:10～12:50（小俣）	

科目No.	SGR01-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	研究法 (PT)		担当教員 E-Mail	今岡 真和 imaokam@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	卒業研究		必修	1 単位	前 期 (16h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	システマティックレビュー、ランダム化比較試験など大規模データを用いた研究解析を多数実施した経験から、データの取扱い、解析方法などを具体的に教示できる。					
授業内容の要約	理学療法学について研究する様々な方法論、統計学的検定の選択法を学ぶ。また、研究の一連の流れを学び、研究の具体的方法を習得する。ICT を活用した情報分析、課題解決に必要な情報探索方法の獲得、情報アウトプットの書き方、プレゼンテーション技法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 研究データ分析のための基礎的な統計処理等を理解する 2. 研究の一連の過程・方法論を理解する					
対面授業の 進め方	講義および課題に対する演習とする。 卒業研究に向けての第一歩である。積極的な授業参加を期待する。					
遠隔授業の 進め方	Teams を活用してリアルタイム配信とオンデマンド配信を活用して、学習習熟が円滑に行えるように実施する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. EBM と EBPT、研究に関する基礎知識				教科書 P1-10		
2. 研究デザインの紹介				教科書 P13-24、P100-151		
3. 論文検索 (図書館利用方法、倫理申請、リテラシー全般について)				Call 教室にて文献検索 教科書 P27-69		
4. 研究発表に必要な準備 (抄録・論文・プレゼンテーションなど)、定期テスト				教科書 P154-170		
5. 統計手法① (パラメトリック・ノンパラメトリック)				教科書 P100-139		
6. 統計手法② (差の検定、相関の検定)				教科書 P100-139		
7. 卒業研究演習【指導教員別に指導のもとで計画に沿って研究を進める】①				実験、調査、文献検索など。		
8. 卒業研究演習【指導教員別に指導のもとで計画に沿って研究を進める】②				実験、調査、文献検索など。		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 70% ■その他 30%
	基準等					1～6は、科目担当教員が評価する。 7～8は、卒業研究の指導教員が評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	対馬照輝	最新理学療法学講座理学療法研究法		医歯薬出版株式会社		2021 年
参考図書	山田実	PT・OT のための臨床研究はじめの一步		羊土社		2016 年
履修要件等	3 年次前期までの全ての専門科目・専門基礎科目を履修していることが望ましい。					
研究室	研究科棟 4 階 143 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:00～13:00		

科目No.	SBP06-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	臨床運動学		担当教員 E-Mail	村西 寿祥 muranishih@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	理学療法士として実務経験のある教員が講義を行う。					
授業内容の要約	解剖学および基礎運動学の知識を基に、身体各部位（上肢）の運動および機能、病態について学習する。 正常歩行の運動学・運動力学について学習する。 運動学的・運動力学的知識をもとに、姿勢および動作の観察・分析方法について学習する。					
学修目標 到達目標	1. 上肢関節の構造と機能的な役割を説明できる。 2. 正常動作とは何かを理解できる 3. 正常歩行の運動学・運動力学的な観察・分析が理解できる 4. 基本動作の運動学的・運動力学的な観察・分析が理解できる					
対面授業の 進め方	講義は教科書および板書を中心に進める。 講義は解剖学，基礎運動学，機能運動学を理解している前提で進める。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、授業のオンデマンド配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 肩関節・肩甲帯の構造と機能① 筋機能と運動学			復習：肩関節周囲筋の機能			
2. 肩関節・肩甲帯の構造と機能② 病態			復習：肩関節のバイオメカニクスと病態運動学			
3. 肘・前腕の構造と機能①			復習：肘・前腕の解剖学的特徴			
4. 肘・前腕の構造と機能②			復習：肘・前腕を構成する組織と筋機能			
5. 肘・前腕の構造と機能③			復習：肘・前腕のバイオメカニクスと病態運動学			
6. 正常歩行① 基本的用語			復習：歩行に関する用語の整理			
7. 正常歩行② 時間的・空間的因子			復習：重心・歩幅・重複歩・ケイデンス			
8. 正常歩行③ 各関節運動とその役割			復習：歩行時の各関節運動の意味			
9. 正常歩行④ 歩行時の筋活動とその役割			復習：歩行時の各筋活動の時期と意味			
10. 正常歩行⑤ 歩行時の関節モーメント			復習：歩行における関節モーメントの意味			
11. 姿勢と動作の観察・分析① 力学的基礎			復習：基本的な力学の整理			
12. 姿勢と動作の観察・分析② 姿勢と支持基底面，重心			復習：姿勢と支持基底面，重心との関係			
13. 姿勢と動作の観察・分析③ 重心と関節モーメント			復習：視覚による重心位置と関節モーメントの確認方法			
14. 姿勢と動作の観察・分析④ phase の分け方			復習：phase 毎の分析方法			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト30%	□レポート	■定期試験 70%		□その他 %
	基準等	毎回、授業内で行う小テストの平均点を定期試験テストに加算する		記述試験のみ（記号問題，選択問題は実施しない），解答は説明することを求める		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	Donald A Neuman	「筋骨格系のキネジオロジー原著第3版」		医歯薬出版		2020
参考図書	月城慶一ほか	観察による歩行分析		医学書院		2005

履修要件等	機能運動学, 臨床運動学 I		
研究室	1 号館 5 階 第 21 研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12 : 10～13 : 00

科目No.	SBP07-3R		授業形態	演習	開講年次	3 年次
授業科目名	臨床運動学演習		担当教員 E-Mail	今岡 真和 imaokam@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院や介護老人保健施設における様々な障害像を呈する患者や利用者の動作分析を 10 年に渡って実施してきたことから、動作のとらえ方や動作の成り立ちなどについて要点を解説出来る。					
授業内容の要約	運動学・運動学実習での学習をもとに、運動や動作の観察・分析を行い、臨床における諸現象に対する理学療法評価能力を向上する。					
学修目標 到達目標	1. 基本的な姿勢や動作の観察・分析方法(記録方法)を理解し、実践できる 2. 姿勢・動作観察の記録から問題点の想起や整理ができる 3. 代表的な姿勢・動作障害における理学療法評価が想起できる					
対面授業の 進め方	動作分析の基本事項の復習や解説をもとに、グループに分かれて基本動作の分析を行う。実際にグループごとの動作観察(実技)では講義時間内に目的の動作の分析結果を完成させる。その後、教員からの解説を加える。					
遠隔授業の 進め方	Teams を活用してリアルタイム配信とオンデマンド配信を活用して、学習習熟が円滑に行えるように実施する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 動作観察の記録方法			グループワークもしくは teams			
2. 動作の流れを記録する			グループワークもしくは teams			
3. 動作観察の意味を理解する			グループワークもしくは teams			
4. 動作観察実践：寝返り(体幹)			グループワークもしくは teams			
5. 動作観察実践：寝返り(体幹)の解説			グループワークもしくは teams			
6. 動作観察実践：起き上がり(上肢・体幹)			グループワークもしくは teams			
7. 動作観察実践：起き上がり(上肢・体幹)の解説			グループワークもしくは teams			
8. 姿勢観察実践：座位			グループワークもしくは teams			
9. 姿勢観察実践：座位の解説			グループワークもしくは teams			
10. 動作観察実践：立ち上がり(下肢・体幹)			グループワークもしくは teams			
11. 動作観察実践：立ち上がり(下肢・体幹)の解説			グループワークもしくは teams			
12. 姿勢観察実践：立位			グループワークもしくは teams			
13. 姿勢観察実践：立位の解説			グループワークもしくは teams			
14. 動作観察実践：歩行			グループワークもしくは teams			
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 80%	□その他 %	
	基準等	動作観察・分析の課題をグループにて検討し内容を記録用紙にまとめて提出する		動作観察に必要な基礎知識を把握しているか問う問題を		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	藤澤宏幸	「臨床動作分析」		文光堂		2016 年
履修要件等						
研究室	研究科棟 4 階 143 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:00～13:00		

科目No.	SPM01-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	理学療法管理学 I		担当教員 E-Mail	畑中 良太 hatanakar@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法管理学		必修	1 単位	後 期（16h）
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院、職能団体、養成校のマネジメント経験を持つ教員が、その経験を生かして、理学療法マネジメントについての考え方について講義する。					
授業内容の要約	医療の高度化や変化する時代に対応しながら、関連職種と連携し、チーム医療を推進しなければならない。これまで学習した理学療法について、対象者へ提供するための、さまざまなマネジメント（管理）を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 理学療法士が管理する対象を学ぶ 2. 理学療法士が管理することの意義を学ぶ 3. 理学療法管理の方法を学ぶ					
対面授業の 進め方	講義内容の概略を講義し、グループディスカッションを行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office 365 の teams、form、stream を使用し、双方向通信の授業を行う。 オンデマンド配信、課題配信を組み合わせで行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 管理学とは（教科書 pp14-24）			復習：管理学の重要性が高まる理由			
2. 理学療法関連法規（教科書 pp 25-35）			復習：理学療法士及び作業療法士法			
3. 職業倫理（教科書 pp 36-45）			復習：理学療法士の職業倫理ガイドライン			
4. リスク管理（教科書 pp 46-85）			復習：医療事故			
5. 病院における管理・運営（教科書 pp 86-136）			復習：診療報酬			
6. 介護保険施設における管理運営（教科書 pp 137-176）			復習：介護保険			
7. 卒前教育における管理運営（教科書 pp 177-200）			復習：指定規則			
定期試験（期末レポート）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 100%	□レポート	%	□定期試験	%
	基準等	各講義中に講義内容をまとめてもらい理解度を確認する				
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	齋藤昭彦 他	リハビリテーション管理学		羊土社		2020
参考図書	植松光俊 監修	理学療法管理学		南江堂		2018
	奈良勲 他	理学療法管理学		医歯薬出版		2018
	金谷さとみ 他	リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック		メジカルビュー		2018
履修要件等						
研究室	3 号館 2 階 第 29 研究室		オフィスアワー	毎週金曜日 12:00～13:00		

科目No.	SPT10-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	神経系理学療法学		担当教員 E-Mail	畑中 良太 hatanakar@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	2 単位	前 期 (60h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、神経系理学療法の基本的な知識と手法、神経系理学療法についての考え方について講義する。					
授業内容の要約	・当該科目は専門科目であり、中枢神経障害に応じた評価や理学療法の基本的学力を身につけ、評価や理学療法の基本的技能を身につけることを目指す。					
学修目標 到達目標	1. 脳卒中の病態およびその障害について理解できる 2. 脳血管障害の評価、理学療法について基本的な理解ができる 3. 脳血管障害の評価、理学療法についての基本的な技能が身につけている					
対面授業の 進め方	概要を講義形式にて行い、問題演習、実習を行い、模擬症例についてグループワークを行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office 365 の teams、form、stream を使用し、双方向通信の授業を行う。 オンデマンド配信、課題配信を組み合わせで行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 脳・神経の解剖生理（教科書 pp4-15）			復習：脳葉、脳回について			
2. 脳の血管 54			復習：血管の支配領域について			
3. 脳血管障害 30-35			復習：脳梗塞、脳出血について			
4. 脳画像 46-64			復習：CT、MRI の見方			
5. 脳の可塑性とリハビリテーション 67-73			復習：ペナンブラについて			
6. 意識障害とリスク管理 94-101			復習：急性期リスク管理について			
7. 運動障害 102-115			復習：CI 療法について			
8. 筋緊張異常・反射異常 131-139			復習：筋緊張と反射の関係			
9. 感覚障害 118-127			復習：感覚検査の手順			
10. 注意・遂行機能障害 187-193			復習：転倒との関連			
11. 失認症 154-161			復習：半側身体失認について			
12. 半側空間無視 162-172			復習：プリズム眼鏡の使用法			
13. 失行症 173-183			復習：言語との関連			
14. 精神知能障害 194-202			復習：うつ、アパシーについて			
15. 姿勢定位障害 229-239			復習：pusher 症候群について			
16. 姿勢バランス障害の評価 240-248			復習：FBS の手順			
17. 姿勢バランス障害の理学療法 249-252			復習：課題特異的戦略			
18. 運動失調の評価 140-148			復習：SARA の手順			
19. 運動失調の理学療法 148-153			復習：フィードバック制御の賦活			
20. 脳血管障害の痛み 203-214			復習：肩手症候群について			
21. 二次的機能障害 217-226			復習：廃用症候群の予防			
22. 起居動作障害 253-264			復習：起き上がり、立ち上がりの誘導			
23. 片麻痺の歩行の評価 268-277			復習：片麻痺歩行の特徴			
24. 片麻痺歩行の理学療法 278-283			復習：下肢装具とエビデンス			
25. ブルンストロームステージと上田式 12 段階			復習：BRST の練習			
26. SIAS107			復習：SIAS の練習			

27. 模擬症例検討（グループワーク）				課題：模擬症例についてまとめる		
28. 喀痰吸引の理論と実施方法（総論）				復習：喀痰吸引の理解		
29. 喀痰吸引の実施方法（実習）				復習：喀痰吸引の方法		
定期試験（期末レポート）						
30. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 0%		□レポート %	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等				授業の内容全般についての理解度を評価する	
教科書		著者	タイトル		出版社	発行年
		酒向正春ほか	改定第2版リハに役立つ脳画像		メジカルビュー	2020
		吉尾雅春 ほか	「神経理学療法学 第2版」		医学書院	2018
参考図書		阿部浩明ほか	「歩行リハビリテーション」		メジカルビュー	2016
		石合純夫	高次脳機能障害学第3版		医歯薬出版株式会社	2022
		千野直一 ほか	脳卒中の機能評価 SIAS と FIM		金原出版株式会社	2012
履修要件等		特になし				
研究室		3号館2階 第29研究室		オフィスアワー	毎週金曜日 12:00～13:00	

科目No.	SPT11-3R		授業形態	実習	開講年次	3 年次
授業科目名	神経系理学療法学実習		担当教員 E-Mail	畑中 良太・肥田 光正・今井 亮太 hatanakar@kawasakigakuen.ac.jp hidam@kawasakigakuen.ac.jp imair@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	2 単位	前 期 (60h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、脊髄障害、神経筋疾患、および脳性麻痺など小児疾患の基本的な理学療法に関する知識と手法について講義する。					
授業内容の要約	当該科目は教育課程における専門科目であり、脊髄損傷、神経筋疾患、小児疾患の障害に応じた評価や理学療法のアプローチについての基本的学力および専門的技能を身につける。					
学修目標 到達目標	1. 脊髄障害の特性の捉え方、基本的な理学療法が理解できる 2. 神経筋疾患の障害の捉え方、基本的な理学療法が理解できる 3. 運動発達障害について理解でき、基本的な理学療法が実施できる					
対面授業の 進め方	・ 講義とグループワーク、プレゼンテーションを併用しながら教授する ・ 神経系理学療法に必要な基本概念をしっかりと学ぶこと					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams、stream を用いて講義を実施する。実技の習得が必要な場合には学生自身の学修が重要であるため、学生にも練習風景を動画で撮影してもらい、適宜教員が指導を行う。出席は、講義時間中に取り組む課題の提出の有無により確認する。質疑には、office365 teams やメール、電話などで対応する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 脊髄障害の概要と病態について			講義の復習をしておくこと			
2. 脊髄障害の評価① 急性期の評価						
3. 脊髄障害の評価② 機能障害の評価						
4. 脊髄障害の評価③ 活動、参加レベルについての評価						
5. 脊髄障害の合併症およびリスク管理			講義の復習及び、提示された課題に取り組むこと			
6. 脊髄障害の理学療法① 急性期						
7. 脊髄障害の理学療法② 回復期～生活期、スポーツへの参加			復習：パーキンソン病について			
8. パーキンソン病の概要						
9. パーキンソン病の評価						
10. パーキンソン病の理学療法			復習：脊髄小脳変性症について			
11. 脊髄小脳変性症の概要と評価						
12. 脊髄小脳変性症の理学療法			復習：筋委縮性側索硬化症について			
13. 筋委縮性側索硬化症の理学療法						
14. 多発性硬化症、ギランバレー症候群の理学療法			復習：多発性硬化症、ギランバレー症候群について			
15. 正常な粗大運動発達						
16. 神経学的発達チェック（発達検査）			復習：歩行までの発達について			
17. 神経学的発達チェック（姿勢反射）			復習：デンバー式、遠城寺式について			
18. 神経学的発達チェック（神経学的徴候）			復習：原始反射について			
19. 脳性麻痺の分類			復習：神経学的徴候について			
20. 脳性麻痺の原因			復習：痙直型、アテトーゼ型について			
21. 脳性麻痺児の評価			復習：脳室周囲白質軟化症、核黄疽について			
22. 脳性麻痺児の理学療法			復習：GMFM、GMFCS について			
23. 筋ジストロフィー総論			復習：はさみ足、クラウチ歩行について			
			復習：デュシェンヌ型について			

24. 筋ジストロフィーの理学療法		復習：重症度分類について			
25. 二分脊椎の理学療法		復習：Sharrard の分類について			
26. ダウン症候群の理学療法		復習：低緊張、合併症について			
27. 発達障害の理学療法		復習：発達障害について			
28. 模擬症例検討（グループワーク）		課題：模擬症例の検討			
定期試験（期末レポート）					
29. 成人領域総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
30. 小児領域総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10 %	□レポート %	■定期試験 90 %	□その他 %
	基準等	成人領域では、疾患を有する者の動作を模倣し、健常者との違いを考察するための課題に取り組む。 小児領域では、課題・小テストも評価する。		授業・定期試験は、成人領域と小児領域に区分し実施。 定期試験では、授業の内容全般についての理解度を評価。 成績は、両領域を合算し評価。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	細田多穂	「神経筋障害理学療法学テキスト」		南江堂	2018
	藪中良彦ほか	小児理学療法学		メジカルビュー	2020
参考図書	上杉雅之 ほか	「イラストでわかる小児理学療法学演習」		医歯薬出版	2018
	細田多穂 ほか	「小児理学療法学テキスト改訂第3版」		南江堂	2018
履修要件等		特になし			
研究室	3号館2階第27研究室（代表）		オフィスアワー	毎週月曜日 13:00～14:30	

科目No.	SPT13-3R		授業形態	実習	開講年次	3 年次
授業科目名	運動器系理学療法学実習		担当教員 E-Mail	峰久 京子・久保 峰鳴 minehisak@kawasakigakuen.ac.jp kubot@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	2 単位	前 期 (60h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	運動器疾患の急性期、回復期、維持期の理学療法について、病院にて理学療法士として 23 年の臨床経験を有する教員にて講義、実技を行う。また、臨床経験を踏まえ、疾患部位別の評価の特徴や運動療法のポイントを説明する。					
授業内容の要約	運動器の疾患・障害の病態について解剖学的・運動学的観点から学習する。 代表的な運動器の疾患・障害の病態に基づいた評価・治療の技術方法について学習する。					
学修目標 到達目標	1.身体部位ごとに運動器疾患の病態について説明ができる 2.運動器の疾患・障害について理学療法評価の実技ができる 3.運動器の疾患・障害について理学療法治療の実技ができる					
対面授業の 進め方	実技中心の実習授業であり、感染拡大防止の本学の行動指針に従い授業をすすめる。本学指定の感染対策を遵守したうえで、実技が可能な服装での出席を求める。 教科書以外に必要な資料は講義内に配布する。実技練習は時間が限られるため、感染対策に留意しながらきちんと体得すること。					
遠隔授業の 進め方	Microsoftoffice365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。 遠隔授業時の出席確認は、teams に紐づけられた Class Notebook に授業のまとめを作成することと、確認テストの提出をもって行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		60 分以上
1. オリエンテーション・総論。運動器傷害の評価と治療				基本的な運動器の構造を教科書にて理解する		
2. 股関節の運動器傷害の特徴				教科書を読み予習する。授業内容を復習する		
3. 股関節の mobility：評価と治療の概要（教科書 p 86～101）				教科書を読み予習する。授業内容を復習する		
4. 股関節の mobility：実技（教科書 p 86～101）				授業で行った実技について練習する		
5. 股関節の stability：評価と治療の概要(教科書 p 102～109)				教科書を読み予習する。授業内容を復習する		
6. 股関節の stability：実技（教科書 p 102～109）				授業で行った実技について練習する		
7. 股関節の coordination：評価と治療の概要(教科書 p 110～121)				教科書を読み予習する。授業内容を復習する		
8. 股関節の coordination：実技（教科書 p 110～121）				授業で行った実技について練習する		
9. 膝関節の mobility：評価と治療の概要(教科書 p 124～135)				教科書を読み予習する。授業内容を復習する		
10. 膝関節の mobility：実技（教科書 p 124～135）				授業で行った実技について練習する		
11. 膝関節の stability：評価と治療の概要(教科書 p 136～141)				教科書を読み予習する。授業内容を復習する		
12. 膝関節の stability：実技（教科書 p 136～141）				授業で行った実技について練習する		
13. 膝関節の coordination：評価と治療の概要(教科書 p 142～153)				教科書を読み予習する。授業内容を復習する		
14. 膝関節の coordination：実技（教科書 p 142～153）				授業で行った実技について練習する		
15. 足部・足関節の運動器傷害の概要（教科書 p 156～169）				教科書を読み予習する。授業内容を復習する		
16. 足部・足関節の運動器傷害の評価と治療：実技(教科書 p 156～169)				授業で行った実技について練習する		
17. 肩関節・肩甲骨周囲の mobility：評価と治療の概要（教科書 p 32～46）				教科書を読み予習する。授業内容を復習する		
18. 肩関節・肩甲骨周囲の mobility：実技（教科書 p 32～46）				授業で行った実技について練習する		

19. 肩関節・肩甲骨周囲の stability：評価と治療の概要（教科書 p 47～54）				教科書を読み予習する．授業内容を復習する					
20. 肩関節・肩甲骨周囲の stability：実技（教科書 p 47～54）				授業で行った実技について練習する					
21. 肩関節・肩甲骨周囲の coordination：評価と治療の概要（教科書 p 55～58）				教科書を読み予習する．授業内容を復習する					
22. 肩関節・肩甲骨周囲の coordination：実技（教科書 p 55～58）				授業で行った実技について練習する					
23. 肘関節の運動器傷害の概要（教科書 p 60～74）				教科書を読み予習する．授業内容を復習する					
24. 肘関節の運動器傷害の評価と治療：実技（教科書 p 60～74）				授業で行った実技について練習する					
25. 手関節・指の運動器傷害の概要（教科書 p 76～84）				教科書を読み予習する．授業内容を復習する					
26. 手関節・指の運動器傷害の評価と治療：実技（教科書 p 76～84）				授業で行った実技について練習する					
27. 体幹の運動器傷害の概要（教科書 p 172～191）				教科書を読み予習する．授業内容を復習する					
28. 体幹の運動器傷害の評価と治療：実技（教科書 p 172～191）				授業で行った実技について練習する					
29. 各種運動器疾患の運動療法プログラム				教科書を読み予習する．授業内容を復習する					
定期試験（期末レポート）									
30. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験	100%	□その他	%
	基準等					講義内容の理解度を問う			
教科書		著者		タイトル		出版社		発行年	
		小柳磨毅 編		「実践PTノート 運動器傷害の理学療法(第2版)」		三輪書店		2015	
		加藤 浩 編集		Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学		メジカルビュー社		2020	
参考図書		細田 多穂 監修		シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト第2版		南江堂		2016	
		島田洋一、高橋仁美 編		「整形外科 術後理学療法プログラム」第3版		メジカルビュー社		2020	
履修要件等		「運動器系理学療法学」「運動療法学実習」「機能運動学」が履修済であることが望ましい。							
研究室		峰久：1号館5階 第7研究室 久保：1号館5階 第3 共同研究室			オフィスアワー		毎週木曜日 12:10～12:50		

科目No.	SPT14-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	内部障害理学療法学		担当教員 E-Mail	酒井 桂太 sakaik@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	理学療法士として内部障害理学療法の実務経験のある教員が指導にあたる。					
授業内容の要約	本講座は内部障害に対する理学療法について学習する。主な疾患は慢性閉塞性肺疾患、心筋梗塞および糖尿病である。					
学修目標 到達目標	1. 慢性呼吸器疾患に対する理学療法について理解する 2. 虚血性心疾患に対する理学療法について理解する 3. 代謝系疾患に対する理学療法について理解する					
対面授業の 進め方	講義を中心に行う。慢性閉塞性肺疾患、心筋梗塞および糖尿病に関して、内科学で学んだ内容や関連する臓器の解剖生理学的知識を復習してから授業に臨んでいただきたい。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業は対面授業同様にパワーポイントにて、教科書に沿った解説を行い、パワーポイントの配布物の空欄部分に重要な事項を記載する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 包括的呼吸リハビリテーション (①pp204-212)			包括的呼吸リハの内容を復習する			
2. 閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患の病態理解と画像評価 (①pp114-128)			病態の違いによる PT 内容の相違を復習する			
3. 呼吸理学療法① (①pp 164-173)			呼吸理学療法の手技をまとめる			
4. 呼吸理学療法② (①pp 173-188)			呼吸理学療法の手技をまとめる			
5. 手術前術後のアプローチ (配布資料)			周術期リハの内容をまとめる			
6. 包括的心臓リハビリテーション (配布資料)			包括的心臓リハの内容を復習する			
7. 虚血性心疾患の病態の理解 病態評価① (①pp 9-23)			心不全の病態と分類について復習する			
8. 虚血性心疾患の病態の理解 画像を含む病態評価② (①pp 24-65)			画像評価と心電図について復習する			
9. 心筋梗塞のアプローチ① (①pp 66-99)			心筋梗塞の理学療法についてまとめる			
10. 正常心電図 (②pp 104-110)			正常心電図について復習する			
11. 運動負荷テスト (①pp 213-235)			運動負荷テストの種類について復習する			
12. 糖尿病の病態理解 (①pp 238-244)			糖尿病の診断基準について復習する			
13. 糖尿病の運動療法 (①pp 245-247)			糖尿病の運動療法の適応と禁忌をまとめる			
14. 運動プログラムの作成			運動生理について復習する			
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	☑定期試験 100%		□その他 %
	基準等			定期試験は呼吸が試験範囲となる		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	①柳澤 健	「内部障害系理学療法学」		MEDICALVIEW		2010
	②丸岡 弘	「リハビリテーションのためのパッとみてわかる心電図」		中山書店		2009
参考図書	細田多穂他	「理学療法ハンドブック 第1・3巻」改訂第4版		協同医書		2010
履修要件等	2 年後期までの解剖学・生理学・内科学が履修済みであること					
研究室	1 号館 1 階 理学療法専攻長室		オフィスアワー	毎週月曜日 14 : 40～16 : 10		

科目No.	SPT15-3R		授業形態	実習	開講年次	3 年次
授業科目名	内部障害理学療法学実習		担当教員 E-Mail	酒井 桂太 sakaik@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	理学療法士として内部障害理学療法の実務経験のある教員が指導にあたる。					
授業内容の要約	内部障害理学療法学にて学んだ理学療法を実践するための技術の実習を行う。また、内部障害関連の評価方法についての実習を行う。					
学修目標 到達目標	1. 内部障害に関連する評価方法について理解し、実践できる 2. 呼吸理学療法の技術を実施できる 3. 運動負荷テストに関して理解し、運動処方ができる					
対面授業の 進め方	オリエンテーションを行い、デモンストレーションおよび実技の実習を行う。呼吸器の評価をはじめとして、学生同士で互いに体に触れあう実習となる。お互いに学ぶ姿勢で真摯な態度で実習をすること。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業は対面授業同様に Teams を活用して、実技は動画や実演にて学習する。運動処方等の演習はパワーポイントにて説明し、各自演習する。演習結果を forms に入力して、学習状況を確認する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 呼吸器の評価① 呼吸不全の定義・問診 (①pp127、144)			呼吸不全の定義を復習する			
2. 呼吸器の評価② 胸部の解剖学的理解・触診 (①pp145-150)			体表解剖を復習する			
3. 呼吸器の評価③ 打診・聴診 (①pp150-154)			打診・聴診の練習をする			
4. 呼吸器の評価④ 呼吸器の検査・測定 (①pp155-156)			呼吸機能検査について復習する			
5. 呼吸理学療法の徒手的テクニック① (①pp167-169、pp170-173)			徒手的テクニックを練習する			
6. 呼吸理学療法の徒手的テクニック② (①pp175-176、pp178-181)			徒手的テクニックを練習する			
7. 虚血性心疾患の理学療法 異常心電図判別①			心筋梗塞の心電図を復習する			
8. 虚血性心疾患の理学療法 異常心電図判別②			不整脈の復習をする			
9. 運動負荷テスト① 運動負荷テストの実際①			計算問題の復習する			
10. 運動負荷テスト② 運動負荷テストの実際②			計算問題の復習をする			
11. 運動指導① 運動指導の実際			運動負荷テストの結果をまとめる			
12. 運動指導② 運動指導の実際			運動負荷テストの結果を考察する			
13. 糖尿病の運動処方演習①			運動療法の測定結果をまとめる			
14. 糖尿病の運動処方演習②			運動療法の測定結果を考察する			
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	☑レポート 10%	☑定期試験 80%	☑その他 10%	
	基準等		運動負荷テスト、運動処方と運動指導のレポート	定期試験は循環代謝が試験範囲となる	実習態度	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	①柳澤 健	「内部障害系理学療法学」		MEDICALVIEW		2010
	②丸岡 弘	「リハビリテーションのためのパットとみてわかる心電図」		中山書店		2009
参考図書	細田多穂他	「理学療法ハンドブック 第1・3巻」改訂第4版		協同医書		2010
履修要件等	2 年後期までの解剖学・生理学・内科学が履修済みであること					
研究室	1 号館 1 階 理学療法専攻長室		オフィスアワー	毎週月曜日 14：40～16：10		

科目No.	SRP02-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	地域理学療法学		担当教員 E-Mail	今岡 真和 imaokam@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	介護保険下で理学療法士としての実務経験を重ね、要介護・要支援・要援護者と直接関与してきた経験から、介護保険領域、地域支援事業領域における療法士の職域を説明できる。					
授業内容の要約	障害のある人々や高齢者およびその家族が住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全にいきいきとした生活がおくれるよう、医療や保健・福祉および生活にかかわることの重要性理解する					
学修目標 到達目標	1. 地域理学療法の理念、概要、療法士の役割を理解する 2. 地域理学療法の背景と展望についての見識を深め、それを表出できるようになる。 3. 障害の有無に関わらず住み慣れた地域で生活する意味と意義を理解する					
対面授業の 進め方	教科書を中心に、座学とグループワークを行う。前の週に講義で取り組んだ内容の振り返りやレポート課題を課す場合もある。					
遠隔授業の 進め方	teams を活用した双方向の授業を行う。またオフィス 365 のフォームを活用した習熟度を判定する小テストを行い、講義の理解度を確認する					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 地域リハビリテーションの考え方			P1-12 理念・概要をまとめる			
2. 制度の変遷			P13-24 制度設計の目的や意図をまとめる			
3. 介護保険サービス概論			P25-30 サービスの種類をまとめる			
4. 地域包括ケアシステムのなかでの理学療法士の役割			P35-49 職種ごとの差異を理解する			
5. 地域支援事業のなかでの理学療法士の役割			P51-64 理学療法士の特徴を理解する			
6. 事業企画に携わる理学療法士 関連職種の紹介			P65-78 PDCA サイクルや事業企画を知る			
7. 介護保険サービス下の理学療法士			P79-124 介護保険下のサービス内容をまとめる			
8. 介護予防と健康増進①			P125-139 1 次予防・2 次予防をまとめる			
9. 介護予防と健康増進②			P141-161 予防戦略の種類をまとめる			
10.住環境整備（住宅改修・福祉用具）			P179-198 チェック箇所や視点をまとめる			
11. 障がい者スポーツ			P203-214 種類や対象となる人を理解する			
12. 認知症 MCI フレイル			P233-255 認知症の背景基盤を理解する			
13. ターミナルケア			P301-304 死についてまとめる			
14. 1～13 各授業の要点整理と振り返り			P1-304 全体の振り返りを教科書で行う			
定 期 試 験（期 末）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20% □レポート		■定期試験 80 %		□その他 %
	基準等	レポート20%		全て持ち込み不可		指定の地域活動への参加は出席扱いとする
指定参考書	著者	タイトル		出版社		発行年
	細田多穂	地域リハビリテーション学テキスト		南江堂		2018 年 改訂 3 版
参考図書						
履修要件等	生活環境学を履修済みのこと					
研究室	研究科棟 4 階 143 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12：10～12：50		

科目No.	SCP05-3R		授業形態	演習	開講年次	3 年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅲ（P T）		担当教員 E-Mail	峰久 京子・今岡 真和・久保 峰鳴 minehisak@kawasakigakuen.ac.jp imaokam@kawasakigakuen.ac.jp kubot@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	臨床現場における理学療法経験、および臨床実習指導の経験のある教員が、その経験を生かして、理学療法評価の基本的な知識と手法、理学療法評価から治療までの流れについて、その考え方やまとめ方について指導する。					
授業内容の要約	後期開講の臨床総合実習に向けて、学内科目の知識の整理や再確認を行う。また、2 年次の臨床検査測定実習での自己課題を振り返り、体験した内容を他の学生間とで共有する。3 年次の臨床実習で中心になる評価技術にとどまらず、4 年生での臨床実習を見据えた治療学も念頭に置いた演習を行う。また、臨床実習前には事務手続きを含めた実習準備を行う。					
学修目標 到達目標	1. 臨床総合実習Ⅰにおいて、理学療法学専攻学生として適切な態度がとれる 2. 代表的な疾患の検査測定を行い、得られた結果を考察し、問題点の抽出やプログラムの立案ができる 3. 代表的な疾患の症例レポートやレジュメの作成方法・手順が理解できる					
対面授業の 進め方	臨床実習に関する内容を順次講義形式にて解説するとともに実技が必要などときには、感染対策を十分に行ったうえで実技の練習、確認を並行して行う。常に、自己評価にとどまらず、他者評価の立場から他者への関わりを意識して、よく意見交換を行うようにグループワークを多用する。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. オリエンテーション、臨床総合実習について・実習手引きの確認。 臨床検査測定実習（2 年次）時の自己課題の振り返りと確認				実習の手引き・2 年次実習で得た課題を確認		
2. 実技：バイタルサイン				実技準備・バイタルサインについて、教科書（評価学・OSCE）を読み予習・復習をして下さい。		
3. 実技：関節可動域測定				実技準備・ROM 測定について、教科書（評価学・OSCE）を読み予習・復習をして下さい。		
4. スポーツ活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク				当日は体調管理に努める		
5. 実技：MMT				実技準備・MMT について、教科書（評価学・OSCE）を読み予習・復習をして下さい。		
6. 実技：形態測定				実技準備・形態測定について、教科書（評価学・OSCE）を読み予習・復習をして下さい。		
7. 実技：感覚・反射・SIAS①				実技準備・感覚・反射検査、SIAS について、教科書（評価学・OSCE）を読み予習・復習をして下さい。		
8. 実技：感覚・反射・SIAS②				実技準備・感覚・反射検査、SIAS について、教科書（評価学・OSCE）を読み予習・復習をして下さい。		
9. 実技：失調症・バランス検査				実技準備・失調症・バランス検査について、教科書（評価学・OSCE）を読み予習・復習をして下さい。		

10. 実技：基本動作の介入（運動器疾患）				実技準備・運動器疾患の基本動作について、教科書（ADL・OSCE）を読み予習・復習をして下さい。		
11. 実技：基本動作の介入（中枢性疾患）				実技準備・中枢性疾患の基本動作について、教科書（ADL・OSCE）を読み予習・復習をして下さい。		
12. 演習：骨関節系疾患の症例レポート・レジユメの作成について① （模擬症例；グループワーク）				2年次実習で作成したレジユメの確認。グループワーク、発表の準備をしてください。		
13. 演習：骨関節系疾患の症例レポート・レジユメの作成について② （模擬症例；グループワーク）				2年次実習で作成したレジユメの確認。グループワーク、発表の準備をしてください。		
14. 演習：神経系疾患の症例レポート・レジユメの作成について（模擬症例；グループワーク）				2年次実習で作成したレジユメの確認。グループワーク、発表の準備をしてください。		
定期試験（OSCE・CBTを含む）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	☒ 課題・小テスト 20%	☐ レポート %	☐ 定期試験 %	☒ その他 80%	
	基準等	実習前CBT（PT臨床実習前後問題）			実習に必要な実技の習熟度と、講義内容の理解度を問う	
教科書		著者	タイトル		出版社	発行年
		才藤 栄一（監修）	PT・OTのための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 [WEB 動画付き]		金原出版	2020 年
			「臨床実習の手引き 第5版」			
			「臨床実習の手引き 理学療法学専攻 2022 年度版」			
参考図書		相澤純也、美崎定也、石黒幸治	PT 症例レポート 赤ペン添削ビフォー&アフター	羊土社	2016 年	
履修要件等						
研究室		峰久：1号館5階 第7研究室 今岡：1号館1階 第22研究室 久保：1号館5階 第3共同研究室	オフィスアワー	各担当教員オフィスアワー		

科目No.	SCP08-3R		授業形態	実習	開講年次	3 年次
授業科目名	臨床総合実習Ⅰ（PT）		担当教員 E-Mail	酒井 桂太・理学療法学専攻教員 sakaik@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必 修	8 単位	後 期 (360h) 8 週間
教員の実務経験と 授業内容の関連	理学療法士として実務経験のある教員と実習指導者が指導にあたる。					
授業内容の要約	臨床実習施設において臨床実習指導者の指導監督の下、診療チームの一員となり、理学療法評価から理学療法までの実際を診療参加型臨床実習として行う。 臨床総合実習Ⅰは、主に情報収集、観察、検査・測定、統合・解釈、問題点の抽出、目標設定、治療計画の立案までの初期評価を中心に学び、臨床実習指導者の助言・指導・援助の下に理学療法を実施し、その検証を通して理学療法の理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 理学療法のプロセスを理解することができる 2. 理学療法評価・理学療法の実践を学ぶ 3. 問題点を抽出し、臨床的推論を行うことができる 4. 指導の下で、基本的な理学療法が実施できる					
対面授業の 進め方	実地体験学習。実習の手引きをよく確認すること。臨床実習ですので自ら学ぶ姿勢で実習に取り組んでいただきたい。なお、実習後セミナーである各グループの実習報告会にて実習の成果を発表し、積極的にディスカッションしていただきたい。					
遠隔授業の 進め方	学内代替実習になった場合は、実習担当教員が Teams のクラスノートブックを活用して、日々の課題の提出と添削をおこなう。また、オンラインにて双方向の実習指導を個別および少人数にておこなう。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分程度
・ 8 週にわたり、病院などで臨床総合実習を実施する。そのうち 1 週以上は通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションに関する実習を行う ・ 実習後にセミナーにて症例発表会を行う ・ 実習前評価として臨床実習指導Ⅲで明らかとなった自己課題に対する取り組みを評価する。実習後評価として CBT を行う				毎日の実習体験をデイリーノートにまとめる。 実習報告会用のレジメを A3 用紙 1 枚にまとめる。症例に関する基礎知識を自己学習する。		
成績評価方法	項目	☑課題・小テスト 30%	□レポート %	□定期試験 %	☑その他 70%	
	基準等	実習前評価（筆記試験）と実習後 CBT		実習目標達成状況（臨床実習成果記録・実習報告セミナー、提出物等）を総合して判定する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
		「臨床実習の手引き 第 5 版」				
		「臨床実習の手引き 理学療法学専攻 2022 年度版」				
参考図書	特に指定しない					
履修要件等	実習要件 3) を満たしていること					
研究室	1 号館 1 階 理学療法専攻長室		オフィスアワー	毎週月曜日 14：40～16：10		

科目No.	SGR01-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	研究法（OT）		担当教員 E-Mail	上島 健（代表）、作業療法学専攻教員 kamishimat@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	卒業研究		必修	1 単位	前 期（16h）
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	臨床で働く作業療法士が、対象者の治療等を通して得られた疑問を検証していくことが重要である。本講義では、卒業研究の進め方、研究に関する流れ（目的、対象、分析、結果の解釈や統計的処理方法、考察）について Active Learning にて理解を深め、学修成果として卒業研究に着手する。なお、研究においては、 ICT を活用した情報分析を行い、情報モラルに関する教育、課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献検索・データベース活用法等）、情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）、情報のアウトプットに関するもの（レポートや論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーション技法等）を学修する。 卒業研究指導教員の指導のもと、研究テーマに沿って、実験計画、実験あるいは調査、文献検索などについて学修する。本講義を履修することにより、3 年次後期から 4 年次にかけての卒業研究、卒業論文に必要な研究の方法を学修することができる。					
学修目標 到達目標	1. 研究についての理解を深め、プロセスを説明することができる 2. 研究を行うための必要な基礎知識(基本的な統計処理)を理解することができる 3. 研究テーマに沿った文献検索と収集、研究計画の立案、題目設定ができる					
対面授業の 進め方	1. 前半 6 回は講義形式で実施し、後半 2 回は主査教員に配属されて演習指導を受ける。 2. 講義欠席時は、講義日より 1 週間以内に講義資料を担当教員の研究室へ取りに来ること。 3. 授業に関連するルール（出欠・成績等）は、初講日に説明するので遵守すること					
遠隔授業の 進め方	Covid・19 感染蔓延時で対面授業が困難な時は、Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う(Microsoft office365 の teams を使用し、授業のオンデマンド配信と課題配信を組み合わせて行う)。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. ガイダンス、研究準備期【上島】（教科書 p8～42） ICT を活用した情報分析を行い、情報モラルに関する教育、課題解決のために必要な情報を探索する方法（図書館利用法・文献検索・データベース活用法等）				指定教科書の該当ページを確認する		
2～3. 研究企画期【上島】（教科書 p43～78） 情報を分析評価し整理する方法（情報処理、情報整理法等）				指定教科書の該当ページを確認する		
4～5. 研究実施・まとめ期【上島】（教科書 p79～119） 情報のアウトプットに関する方法（レポートや論文の書き方、プレゼンテーション技法等）				指定教科書の該当ページを確認する		
6. 研究成果期【上島】総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）（教科書 p120～151）				指定教科書の該当ページを確認する		
7～8. 卒業研究演習【各指導教員と密に連絡・相談・指導を受けながら研究計画に沿って進める】				主査教員に次回指導日時を確認し、研究計画を作成する。		

定 期 試 験				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 75% ■その他 25%
	基準等			講義1～6は、科目担当教員が評価する(定期試験)。 講義7～8は、卒業研究の主査指導教員が取り組み状況を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社
	山田 実 編集	「PT・OT のための臨床研究ははじめの一步」		羊土社
参考図書	2021 年度 作業療法学専攻卒業研究発表会 要旨			
	主査教員が随時指定する。			
履修要件等	3 年次前期までの全ての専門科目・専門基礎科目の履修が望ましい。 4 年生の卒業研究発表会を視聴・聴講しておくことが望ましい。			
研究室	1 号館 5 階 第 14 研究室（上島）		オフィスアワー	毎週木曜日 14:40-16:10（上島）

科目No.	SOM01-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次			
授業科目名	作業療法管理学 I		担当教員 E-Mail	谷口 英治 tanigutie@kawasakigakuen.ac.jp					
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間			
	作業療法学	作業療法管理学		必修	1 単位	後 期 (16h)			
教員の実務経験と 授業内容の関連	臨床現場の実務経験を基に、医療・保健・福祉・教育行政など将来の職場となる組織の管理・運営について講義を行う。								
授業内容の要約	医療・保健・福祉・教育行政など将来の職場となる組織の管理・運営について、また、作業療法の実践を行う医療従事者としての責務と行動範囲や倫理問題について学ぶ。 作業療法における管理学の位置づけ、作業療法とマネジメント、組織の中の作業療法士の役割、チーム医療・多職種連携とコミュニケーション、診療報酬と記録の管理、作業療法部門の業務管理、職場倫理、諸制度、作業療法臨床実習の管理・運営と指導法などを理解する。								
学修目標 到達目標	1. リハビリテーション医療、特に作業療法部門でなぜ管理・運営学が必要か、その理由は何か、理解できる。 2. 作業療法とマネジメント、 組織とは・情報のマネジメントについて理解できる。 3. 組織の中の作業療法士の役割が理解できる。 4. チーム医療・多職種連携とコミュニケーションの必要性が理解できる。 5. 診療報酬と記録の管理が理解できる。 6. 医療サービスの提供と医療安全のマネジメントについて理解できる。								
対面授業の 進め方	・配布資料、パワーポイント、板書 ・臨床実習現場に出たときに極めて重要であることを学ぶ								
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信にてオンライン授業を行う。併せてメール通信による課題の提示については、担当教員からの連絡・指示があります。出席確認の方法は通信開始時に行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員に直ちに申し出てください。								
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上			
1. なぜ作業療法部門で管理・運営学の知識・技術が求められるか				配布資料を復習しそれぞれのポイントをノートにまとめ整理しておくこと					
2. 作業療法とマネジメントについて				同上					
3. 組織とは・組織の成り立ちについて				同上					
4. 情報・医療サービス等のマネジメント について				同上					
4. 医療安全のマネジメントについて				同上					
6. 医療事故の発生とその対応について				同上					
7. 再発予防の取り組みについて				同上					
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)									
8. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	80%	□定期試験	%	■その他	20%
	基準等			授業内で課題発表				授業や課題への取り組み姿勢を重視します	
教科書	著者		タイトル		出版社		発行年		

参考図書	1. 日本リハビリテーション医学会	「リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン」第2版	医歯薬出版	2018
	2. 金谷 さとみ 高橋 仁美	リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック	メジカルビュー社	2018
	3. 高木 綾一	リハビリテーション職種のマネジメント	(株)シービーアール	2019
	4. 大庭 潤平	作業療法管理学入門	医歯薬出版株式会社	2018 2021
	5. 佐野厚生総合病院	らくらく楽しい医療安全教育研修にそのまま使えるヒヤリ・ハット小劇場 実録26事例	(株)メディカ出版	2012
履修要件等	普段から医療・保健・福祉機関の組織形態や管理・運営について考えること			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目No.	SOT02-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	身体機能作業療法学Ⅰ		担当教員 E-Mail	上島 健 ・ 白岩 圭悟 kamishimat@kawasakigakuen.ac.jp shiraiwak@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	医療機関、介護老人保健施設、在宅支援での実務経験(25 年間)のある教員が、その経験を生かして、運動器系障害を中心とした作業療法における基本的な知識と手法について講義する。					
授業内容の要約	身体障害領域の作業療法について、運動器系障害における機能障害、活動障害、生活行為の障害を理解する。本講義では、運動器系障害(上肢や下肢の骨折、変形性膝関節症、関節リウマチ、末梢神経障害、熱傷等)を中心とした疾患別作業療法を学修し、作業遂行を阻害する要因を分析し、運動学習の理論に基づき、運動や知覚の再学習する支援過程について、支援チームの一員として作業療法士に求められる役割を学修する。 本講義を履修することにより、障がいに応じた評価や訓練方法を学び治療計画の立案や結果の予見・評価を実現できることを目指す。さらに、3 年次後期の臨床総合実習Ⅰ、4 年次前期の臨床総合実習Ⅱにおいて、診療参加に繋げることができるようにする。					
学修目標 到達目標	1. 運動器系身体障害の作業療法について理解する 2. 運動器系身体障害に対する作業療法評価と治療・訓練・援助の実際について理解する 3. OTS として運動器系身体障害者を担当できる基礎知識と基礎技術を修得する					
対面授業の 進め方	・ 基本的な内容を中心に講義を進め、必要に応じてプリントを配布、DVD 等も用いる ・ 授業を遅刻や欠席をする場合は欠席連絡フォームを用いて講義開始までに連絡を行い、翌週までに担当教員まで配付資料を受け取る ・ 後期に履修する臨床総合実習Ⅰに向け、下記以外の疾患についても治療を応用して実施する ・ 授業に関連するルール（出欠・成績等）は、初講日に説明するので遵守すること					
遠隔授業の 進め方	Covid-19 感染蔓延時で対面授業が困難な時は、Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う(Microsoft office365 の teams を使用し、授業のオンデマンド配信と課題配信を組み合わせて行う)。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. ガイダンス、骨折及び関節疾患(大腿骨頸部骨折等、教科書 p156-177)【上島】				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
2. 骨折及び関節疾患(各疾患の評価、教科書 p156-177)【上島】				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
3. 骨折及び関節疾患(各疾患の治療、Active Learning、教科書 p156-177)【上島】				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
4. 熱傷(疾患概要、評価、治療、教科書 p199-218)【上島】				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
5. 神経免疫疾患(多発性硬化症等の評価と治療、教科書 p243-257)【上島】				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
6. 神経免疫疾患(Active Learning、実技練習 1、教科書 p243-257)【上島】				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
7. 骨折・熱傷・神経免疫疾患の作業療法総括、実技練習【上島】				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
8. 関節可動域・筋力へのアプローチ(関節の構造と筋の基礎など)【白岩】				解剖学／生理学で学んだことを復習しておく		
9. 関節リウマチ(疾患の特性について)【白岩】				整形外科で学んだことを復習しておく		
10. 関節リウマチ(作業療法プログラムの立案、アクティブラーニング)【白岩】				作業療法の理論を復習しておくこと		
11. 手の外科(疾患の特性について)【白岩】				整形外科で学んだことを復習しておく		
12. 手の外科(作業療法プログラムの立案、アクティブラーニング)【白岩】				作業療法の理論を復習しておくこと		
13. 神経変性疾患(疾患の特性について)【白岩】				神経内科学で学んだことを復習しておく		
14. 神経変性疾患(作業療法プログラムの立案、アクティブラーニング)【白岩】				作業療法の理論を復習しておくこと		

定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績 評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート10%	■定期試験80%	■その他10%
	基準等			Active Learningを行った成果としてのレポートを評価（各教員5%×2）	本試験、再試験は筆記試験により評価（試験配分：各教員40%）	授業中態度、アクティブラーニング関与度（各教員5%×2）
教科書		著者	タイトル		出版社	発行年
		小林 隆司 編集	「PT・OT ビジュアルテキスト身体障害作業療法学 1 骨関節・神経疾患編」		羊土社	2019
参考図書		島田洋一ら(編)	「改定第3版整形外科術後理学療法プログラム」		(株)メジカルビュー社	2014
履修要件等		2年次の臨床検査・測定実習の履修者が望ましい(評価を経験した上での学修)。				
研究室		上島：1号館5階 第14研究室 白岩：1号館5階 共同研究室	オフィスアワー		上島：毎週木曜日 14:40～16:10 白岩：毎週火曜日 12:10～13:00	

科目No.	SOT03-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	身体機能作業療法学Ⅱ		担当教員 E-Mail	上島 健 kamishimat@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	医療機関、介護老人保健施設、在宅支援での実務経験(25 年間)のある教員が、その経験を生かして、中枢神経系障害の作業療法における基本的な知識と手法について講義する。					
授業内容の要約	身体障害領域の作業療法について、中枢神経系障害における機能障害、活動障害、生活行為の障害を理解する。本講義では、中枢神経系障害を中心とした医学的知識を元に、各種疾患における回復段階に合わせた作業療法支援について、支援チームの一員として作業療法士に求められる役割を学修する。この中には、作業療法を遂行する上で必要とされる喀痰等の吸引に関する内容も含み、Active Learning にて理解を深める。 本講義を履修することにより、障がいに応じた評価や訓練方法を学び治療計画の立案や結果の予見・評価を実現できることを目指す。さらに、3 年次後期の臨床総合実習Ⅰ、4 年次前期の臨床総合実習Ⅱにおいて、診療参加に繋げることができるようにする。					
学修目標 到達目標	1. 中枢神経系障害の評価、治療・支援について理解ができる 2. 身体障害領域の疾患特性、中枢神経系の作業療法治療過程で不明な点を自ら調べることができる 3. 作業療法学生として、臨床実習に耐えうる基礎知識、基礎技術の習得ができる					
対面授業の 進め方	・講義資料を綴り込むファイル(2 つ穴、厚さ 3cm 程度)を準備すること。講義欠席時は、担当教員の研究室入口に資料を置くので、講義終了から翌週の講義までに、自ら取りに来ること。 ・基本的な内容を中心に講義を進め、必要に応じてプリントを配布、DVD 等も用いる ・授業を遅刻や欠席をする場合は欠席連絡フォームを用いて講義開始までに連絡を行い、翌週までに担当教員まで配付資料を受け取る ・授業に関連するルール（出欠・成績等）は、初講日に説明するので遵守すること。					
遠隔授業の 進め方	Covid-19 感染蔓延時で対面授業が困難な時は、Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う(Microsoft office365 の teams を使用し、授業のオンデマンド配信と課題配信を組み合わせて行う)。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. ガイダンス、基礎編:概論(身体障害、目標設定、教科書 p14-21)			指定教科書の確認、授業後の課題レポート			
2. 作業遂行へのアプローチ(作業遂行とは等、教科書 p22-34)			指定教科書の確認、授業後の課題レポート			
3. 運動学習・知覚再学習(教科書 p35-61)			指定教科書の確認、授業後の課題レポート			
4. 疾患編:脳卒中(疾患概要等、教科書 p80-112)			指定教科書の確認、授業後の課題レポート			
5. 疾患編:脳卒中(評価等、プログラム等、教科書 p80-112)			指定教科書の確認、授業後の課題レポート			
6. 疾患編:脳卒中(治療等、Active Learning、教科書 p80-112)			指定教科書の確認、授業後の課題レポート			
7. 疾患編:脊髄損傷(疾患概要等、教科書 p113-134)			指定教科書の確認、授業後の課題レポート			
8. 疾患編:脊髄損傷(評価等、教科書 p113-134)			指定教科書の確認、授業後の課題レポート			
9. 疾患編:脊髄損傷(プログラム等、教科書 p113-134)			指定教科書の確認、授業後の課題レポート			
10. 疾患編:脊髄損傷(治療等、Active Learning、教科書 p113-134)			指定教科書の確認、授業後の課題レポート			
11. 喀痰等の吸引の総論(非常勤講師:調整中)			指定教科書の確認、授業後の課題レポート			
12. 喀痰等の吸引の演習(非常勤講師:調整中)			指定教科書の確認、授業後の課題レポート			
13. 脳卒中の作業療法・実技、Active Learning			指定教科書の確認、授業後の課題レポート			
14. 脊髄損傷の作業療法・実技、Active Learning			指定教科書の確認、授業後の課題レポート			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)			試験内容の復習を行うこと			

成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		■レポート 5%	■定期試験 90%	■その他 5%
	基準等			Active Learning を行った成果としてのレポートを評価	本試験、再試験は筆記試験により評価	授業中の態度、Active Learning 関与度
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	小林 隆司 編集	「PT・OT ビジュアルテキスト身体障害作業療法学 1 骨関節・神経疾患編」			羊土社	2019
参考図書	高見彰淑(編集)	「セラピストのための脳卒中評価指標の解釈と活用」			(株)メジカルビュー社	2020
履修要件等	2 年次の臨床検査・測定実習の履修者が望ましい(評価の模倣を経験した上での学修)。					
研究室	1 号館 5 階 第 14 研究室 (上島)			オフィスアワー	毎週木曜日 14:40-16:10	

科目No.	SOT06-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次			
授業科目名	生活環境・行為分析学実習		担当教員 E-Mail	岸村 厚志 kishimuraa@kawasakigakuen.ac.jp					
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間			
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1 単位	前 期 (30h)			
教員の実務経験と 授業内容の関連	身体障害領域の回復期・生活期において生活行為の改善や生活環境の調整の実務経験があり、現在も回復期リハビリテーション病院において、これらの技術指導を行っている。								
授業内容の要約	対象者が望む生活行為を再獲得させるには、できない行為をできる行為に調整しなければいけない。その評価が、できる ADL の評価である。できる ADL の評価を行うためには、標的とする行為の工程を分析し、その工程毎に必要な要素を理解し、できない要因を見極める必要がある。その要因を解決する方法が、環境（人・福祉用具・住環境など）であったり、新しい方法だったりする。それでもその行為に時間がかかりすぎる場合や、もっと環境の要素を減らしたい場合などに身体機能面を改善させることでその行為の満足度が高まることになる。その流れの一部を経験する。								
学修目標 到達目標	1. できる ADL の評価の仕方が説明できる 2. 各動作介入の模倣ができる。 3. 事例に対して介入プランが立案できる。								
対面授業の 進め方	復習を中心とした講義と、先行研究の事例報告に基づき、その介入方法を実際にグループで模倣する。								
遠隔授業の 進め方	teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。								
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上				
1. オリエンテーション・生活環境・行為の治療をするにあたって			振り返りレポート A4 サイズ 1 枚以内						
2. 治療理論（学習理論）			振り返りレポート A4 サイズ 1 枚以内						
3. 治療理論（応用行動分析学）			振り返りレポート A4 サイズ 1 枚以内						
4. 評価の視点：AMPS など			振り返りレポート A4 サイズ 1 枚以内						
5. 評価の視点：できる ADL（グレーディング・無誤学習）			振り返りレポート A4 サイズ 1 枚以内						
6. 介入プログラムの立案の仕方			振り返りレポート A4 サイズ 1 枚以内						
7. 寝返り起き上がり動作			振り返りレポート A4 サイズ 1 枚以内						
8. 坐位・立位動作			振り返りレポート A4 サイズ 1 枚以内						
9. 移乗動作			振り返りレポート A4 サイズ 1 枚以内						
10. 移動動作			振り返りレポート A4 サイズ 1 枚以内						
11. 食事動作			振り返りレポート A4 サイズ 1 枚以内						
12. 更衣動作			振り返りレポート A4 サイズ 1 枚以内						
13. 排泄動作			振り返りレポート A4 サイズ 1 枚以内						
14. 入浴動作			振り返りレポート A4 サイズ 1 枚以内						
定期試験（期末レポート）									
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	42%	□定期試験	58%	□その他	%
	基準等			1～14回の振り返りレポート、内容により3段階評価（各3点）		定期試験は筆記試験で実施する。			

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	編集：濱口豊太	標準作業療法学：日常生活活動・社会生活行為学	医学書院	2018
	山崎裕司・山本淳一	リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ	三輪書店	2019
参考図書	編集：濱口豊太	標準作業療法学：基礎作業学（第3版）	医学書院	2017
	鈴木誠	脳卒中の教科書	ヒューマン・プレス	2019
履修要件等				
研究室	1号館1階 作業療法専攻長室	オフィスアワー	毎週月曜日 16:20～17:00	

科目No.	SOT07-3R		授業形態	講義・実習	開講年次	3 年次
授業科目名	義肢装具学（含実習）		担当教員 E-Mail	田丸 佳希		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必 修	1 単位	前 期（30h）
教員の実務経験と 授業内容の関連	身体障害領域（ハンドセラピー）で実務経験がある教員が、その経験を生かして、義肢装具の基礎知識、また Sprint の作成を含めて指導する。					
授業内容の要約	当該科目は、本学のディプロマ・ポリシーである「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な知識を充分身につけた人」を達成するための専門科目です。義肢の適応（切断の知識・義手構成の知識・チェックアウト）、 Sprint の名称と適応・ Sprint の作成を経験する。					
学修目標 到達目標	1. 義手・ Sprint の基礎知識（名称・機能・操作等）について説明が出来る。 2. 上腕義手・前腕義手の適応について評価し、その原因を評価することが出来る。 3. Cockup-sprint ・ Short-Opponens-Sprint の作成が出来る。					
対面授業の 進め方	授業内は、基礎知識の注入は導管モデルとなるが、各授業の後半ではアクティブラーニングを用いた振り返りと学習進捗状況の確認を行う。また、実技では各学生 2 つの作品を作成する。授業後半コマでは義肢装具の振り返りについてブレインストーミングやラウンドロビンを用いて実施する。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、 teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. オリエンテーション			各授業計画に合わせて教科書で予習をする			
2. 義肢装具学の概要			義肢装具の歴史や成り立ちについて学習する			
3. 装具と切断			切断部位の名称を学習する			
4. 装具の構成要素			義手を構成している部品の名称を学習する			
5. 義手のチェックアウトⅠ			前腕義手のチェックアウト項目を学習する			
6. 義手のチェックアウトⅡ			上腕義手のチェックアウト項目を学習する			
7. Sprint の役割とその種類Ⅰ			Sprint の適応について学習する			
8. Sprint の役割とその種類Ⅱ			Sprint の特徴と名称を学習する			
9. Short-Opponens-Sprint の作成Ⅰ			短対立装具の作成手順を学習する			
10. Short-Opponens-Sprint の作成Ⅱ			ポリフレックスⅡを用いて作成し学習する			
11. Cockup sprint の作成Ⅰ			Cockup sprit の作成手順を学習する			
12. Cockup sprint の作成Ⅱ			ポリフレックスⅡを用いて作成し学習する			
13. 下肢装具の種類と適応			下肢装具の名称と使用方法について学習する			
14. 義手装具学のまとめ			各コマでの重点項目を整理し学習する			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック			定期試験の解答・解説			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%
	基準等					□その他 %
				筆記試験を実施する		
教科書	著者		タイトル		出版社	発行年
	日本作業療法士協会		「作業療法学全書」義肢装具学		共同医書出版社	2017
参考図書	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	SOT08-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	高次脳機能作業療法学		担当教員 E-Mail	水野 貴子 mizunot@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必 修	1 単位	前 期 (16h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院や施設で 19 年の臨床経験のある教員がその経験を活かして高次脳機能障害の知識と治療技法を講義し、対象者への対応について指導する。					
授業内容の要約	脳損傷によって障害されるのは運動や感覚だけではない。記憶や言語、物や空間の認知、目的を持った行動などの高次脳機能も障害され、日常生活に大きな支障をきたす。本講義では、講義と治療を考察しながら実践し、高次脳機能障害の治療について理解できるようにする。					
学修目標 到達目標	1. 対象者の症状から高次脳機能障害の特徴を推測できる 2. 高次脳機能障害の作業療法の流れ（情報収集―評価―統合と解釈―目標設定―治療）を理解することができる 3. 高次脳機能障害に対する治療の立案と実施ができる					
対面授業の 進め方	講義（講義資料を随時配布、パワーポイント使用）、演習（治療の実施、症例検討） 高次脳機能評価学を復習しておくこと。					
遠隔授業の 進め方	講義では Microsoft office365 の Teams を使用し双方向通信の授業を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 高次脳機能障害の作業療法（教科書 pp26-36）				評価の復習を行うこと		
2. 注意障害の作業療法（教科書 pp47-55、128-139、174-183、242-248）				注意障害の復習を行うこと		
3. 半側空間無視の作業療法（教科書 pp112-125、223-240）				半側空間無視の復習を行うこと		
4. 記憶障害の作業療法（教科書 pp56-65、184-191）				記憶障害の復習を行うこと		
5. 認知症の作業療法（教科書 pp155-168、258-265）				認知症の復習を行うこと		
6. 失語・失行・失認の作業療法（教科書 pp69-107、194-222）				失語・失行・失認の復習を行うこと		
7. 症例検討				1-6 回の復習を行うこと		
定 期 試 験						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績 評価 方法	項目	■小テスト 10%		■定期試験 90%		
	基準等	復習のための小テストを随時実施し、 授業の内容についての理解度を評価する。		授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	能登 真一	「標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 第 2 版」			医学書院	2019
参考図書	石合純夫	「高次脳機能障害学 第 3 版」			医歯薬出版	2022
	藤田郁代他	「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第 3 版」			医学書院	2021
	本田哲三	「高次脳機能障害のリハビリテーション ー実践的アプローチ第 3 版」			医学書院	2016
	渕雅子	「作業療法学全書 第 8 巻 高次脳機能障害 改訂第 3 版」			協同医書出版	2011
履修要件等	「高次脳機能評価学」が履修済であることが望ましい。					
研究室	1 号館 4 階 第 5 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12：10～12：50		

科目No.	SOT10-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	内部障害作業療法学		担当教員 E-Mail	白岩 圭悟 shiraiwak@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必 修	1 単位	前 期 (16h)
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約						
基本的な知識の整理をしながら、作業療法で接する内部障害者の治療原則を理解し、適切なリスク管理と生活指導を行えるように学修する。						
学修目標 到達目標						
1. 作業療法の対象となる内部障害の概念と種類を知る 2. 内部障害に対する評価と作業療法の概略を述べることができる 3. 内部障害に対してリスク管理ができる						
対面授業の 進め方						
講義が中心である。資料で進める。 アクティブラーニングを取り入れディスカッションを取り入れた講義をする。 解剖学等基本的知識の復習を行うことが望ましい。						
遠隔授業の 進め方						
Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。第 1 回～ 7 回は遠隔で授業を行い、第 8 回はセクションの まとめとして対面授業を行う。遠隔授業時の出席確認は、授業終盤に配信する課題の提出をもって行う。						
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 内部障害の概論、心電図				概論と心電図について理解する		
2. バイタルサインとリスク管理				リスク管理について理解する		
3. 検査所見と身体所見（呼吸、心疾患、サルコペニア、糖尿病、がんなど）				各所見について理解する		
4. 呼吸器疾患に対する作業療法				呼吸器疾患について理解する		
5. 心疾患に対する作業療法				心疾患について理解する		
6. がんと人生の最終段階への作業療法				がんについて理解する		
7. 糖尿病に対する作業療法				糖尿病について理解する		
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	☒ 課題・小テスト 10%		☒ レポート 20%		☒ 定期試験 60%
	基準等	各授業に関する課題があり、その取り組む姿勢や提出物の内容を評価する。		レポート課題があり、提出物の内容を評価する。		☒ その他 10% 授業への参加度、定期試験の受験資格を失わない出席が必要である。
教科書	著者		タイトル		出版社	
	PT・OT ビジュアルテキスト		身体障害作業療法学 2 内部疾患編		羊土社	
参考図書	岩崎テル子ほか		「身体機能作業療法学」第 4 版		医学書院	
	石川 齊ほか		「作業療法技術ガイド」第 4 版		文光堂	
履修要件等						
内科学を履修していることが望ましい						
研究室			1 号館 5 階 共同研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10～13:00	

科目No.	SOT12-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	精神機能作業療法学		担当教員 E・Mail	井上 貴雄 inouet@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	教員の臨床現場の実務経験（14 年）を基に、精神医療・保健・福祉の現状を説明し、精神科リハビリテーションの一分野である精神機能作業療法の位置づけと意義、そして疾患別及び対象者の回復状態に応じた作業療法の流れ（評価・介入・成果）を講義する。さらに地域支援の活動の紹介、就労援助などについて症例を通じて学修する。また、対象者への対応の仕方についても演習する。					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「対象者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる」を達成するための科目である。対象者を総合的に評価するための知識を習得する。また、医療従事者として望ましい態度を習得する。精神保健福祉対策の概要を学ぶとともに精神障害作業療法の機能、役割、実践と疾患別アプローチへの理解を深める					
学修目標 到達目標	1. 精神障害作業療法を実践するために必要な基礎知識、治療・訓練・援助の内容、方法を学修し説明できる 2. 評価を実施するために必要な基礎的な知識を身に付けることができる 3. 疾患・障害の特性を理解し、疾患・障害に対する作業療法が修得できる 4. 対象者の回復状態に応じた作業療法の評価、治療計画、実施が修得できる					
対面授業の 進め方	1. 疾患像をイメージできるよう動画資料・教科書・配布資料を媒体にした授業形態で進める 2. 理解の状況・程度に応じた質疑応答とディスカッションを行う					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 精神科医療の歴史と法制度（教科書②p35～p132、資料・VTR）			教科書（②p35～p132 を読んでおくこと）			
2. リカバリーと精神障害作業療法の概要（教科書②p3～p28）			講義で配布した資料を再度復習し、さらに知識を深めるため文献調査しノートにまとめること			
3. 精神障害作業療法の治療・援助構造と治療機序 1（教科書②p85～p121～p28）			講義で配布した資料を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
4. 精神障害作業療法の治療・援助構造と治療機序 2（教科書②p122～p154）			講義で配布した資料を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
5. 各病期における精神科作業療法（教科書②p220～p249）			講義で配布した資料、及び教科書・参考書を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
6. 疾患別作業療法 1：統合失調症にともなう障害と作業療法（教科書①p66～p110）			講義で配布した資料を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
7. 疾患別作業療法 2：気分障害（うつ病）にともなう障害と作業療法と小テスト（教科書①p111～p150）			講義で配布した資料、及び教科書・参考書を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
8. 疾患別作業療法 3：気分障害（躁うつ病）にともなう障害と作業療法と小テスト（教科書①p111～p150）			講義で配布した資料、教科書・参考書、及び小テストを再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			

9. 疾患別作業療法 4：神経症性障害に対する作業療法と小テスト (教科書①-151-177)				講義で配布した資料、及び教科書を再度復習し、 ポイントを整理しノートにまとめておくこと		
10. 疾患別作業療法 5：摂食障害に対する作業療法と小テスト（教科 書①p178～p187）				講義で配布した資料、教科書・参考書、及び小 テストを再度復習し、ポイントを整理しノートに まとめておくこと		
11. 疾患別作業療法 6：依存症に対する作業療法と小テスト（教科書 ①p188～p215）				講義で配布した資料、及び教科書・参考書、小 テストを再度復習し、ポイントを整理しノートに まとめておくこと		
11. 疾患別作業療法 6：境界例パーソナリティ障害に対する作業療法 と小テスト（教科書①p216～p225）				講義で配布した資料、及び教科書・参考書、小 テストを再度復習し、ポイントを整理しノートに まとめておくこと		
13. 疾患別作業療法 5：認知症および自閉症スペクトラム障害に対す る作業療法と小テスト（教科書①p226～p276）				講義で配布した資料、及び教科書・参考書、小 テストを再度復習し、ポイントを整理しノートに まとめておくこと		
14. 関連療法と小テスト（教科書②p342～p369）				教科書を再度復習し、ポイントをまとめておく こと		
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				知識不足な部分、理解不十分な部分等再度復習 し、まとめておくこと		
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート	%	■定期試験 70%	■その他 10%
	基準等	国試過去問小テストの 実施（授業結果の振り返り）			定期試験を実施。 講義の内容全般、および国試 過去問より理解度を評価す る。	授業への参加と 取り組み姿勢
教科書		著者	タイトル		出版社	発行年
		朝田隆 ほか	「精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版」		中央法規出版株式会社	2020
		山根寛	「精神障害と作業療法 新版」		三輪書店	2017
参考図書		早坂友成	精神科作業療法の理論と技術		メジカルビュー	2018
履修要件等		心理学・臨床心理学・精神医学・精神障害評価学・精神障害臨床評価学実習などの知識が必要です。				
研究室		1号館5階 第13研究室			オフィスアワー	木曜日 12：10～13：00

※教科書①：朝田 隆ほか「精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版」

教科書②：山根 寛「精神障害と作業療法 新版」

科目No.	SOT13-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	精神機能作業療法学実習		担当教員 E-Mail	大類 淳矢 oruiz@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1 単位	前 期 (45h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	医療機関での 11 年の臨床勤務経験のある教員がその経験を活かして、精神障害者の支援に役立つ作業療法でのプログラム立案、実施の方法について、実践的な視点を中心に指導する。					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「対象者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる」を達成するための科目である。作業療法実施に必要な疾患別の治療技術・知識と、対象者に応じた治療プログラム立案から実施に至る流れを習得する。					
学修目標 到達目標	1. 精神機能作業療法の治療理論を理解し、説明できる 2. 疾患別作業療法の治療技術を習得し、目的に応じた治療プログラムを立案できる 3. 対象者に応じた作業療法評価から治療プログラム立案を行い、実施に至る工程を説明できる。					
対面授業の 進め方	教科書および配布資料を用いて講義および実習を行う。実習では小グループに分かれて、症例を用いたアクティブラーニングを行い、臨床の場において疾患の特徴に合わせた治療プログラムの作成及び実施能力を、実習を通して養う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 精神障害リハビリテーションにおける作業療法の位置づけ			予習：教科書①p30-63 を読む			
2. 作業療法の特性、目的、役割、手段			予習：教科書①p30-63, ②p58-83 を読む			
3. 疾患別作業療法：統合失調症（講義）			予習：教科書①p66-110, ②p269-278 を読む			
4. 疾患別作業療法：統合失調症（プログラム立案の実習）			グループ討議を基に、立案内容をレポートにまとめる			
5. 疾患別作業療法：気分障害（講義）			予習：教科書①p134-150, ②p279-285 を読む			
6. 疾患別作業療法：気分障害（プログラム立案の実習）			グループ討議を基に、立案内容をレポートにまとめる			
7. 疾患別作業療法：神経症性障害（講義）			予習：教科書①p151-177, ②p286-290 を読む			
8. 疾患別作業療法：神経症性障害（プログラム立案の実習）			グループ討議を基に、立案内容をレポートにまとめる			
9. 疾患別作業療法：摂食障害（講義）			予習：教科書①p178-187, ②p290-296 を読む			
10. 疾患別作業療法：摂食障害（プログラム立案の実習）			グループ討議を基に、立案内容をレポートにまとめる			
11. 疾患別作業療法：パーソナリティ障害（講義）			予習：教科書①p216-225, ②p300-304 を読む			
12. 疾患別作業療法：パーソナリティ障害（実習）			グループ討議を基に、立案内容をレポートにまとめる			
13. 疾患別作業療法：発達障害（講義）			予習：教科書①p256-276, ②p304-315 を読む			
14. 疾患別作業療法：発達障害（プログラム立案の実習）			グループ討議を基に、立案内容をレポートにまとめる			
15. 疾患別作業療法：依存症候群（講義）			予習：教科書①p188-215, ②p296-300 を読む			
16. 疾患別作業療法：依存症候群（プログラム立案の実習）			グループ討議を基に、立案内容をレポートにまとめる			
17. 疾患別作業療法：認知症（講義）			予習：教科書①p226-255, ②p315-324 を読む			
18. 疾患別作業療法：認知症（プログラム立案の実習）			グループ討議を基に、立案内容をレポートにまとめる			
19. 疾患別作業療法：てんかん（講義）			予習：教科書①p277-285 を読む			
20. 疾患別作業療法：てんかん（プログラム立案の実習）			グループ討議を基に、立案内容をレポートにまとめる			
21. 地域移行支援における作業療法（講義、実習を含む）			予習：教科書①p288-297, ②228-232 を読む			
22. 地域生活支援における作業療法（講義、実習を含む）			予習：教科書①p288-297, ②232-245 を読む			
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
23. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						

成績評価方法	項目	□課題・小テスト 10 %	■レポート 20 %	■定期試験 70 %	■その他 10 %	
	基準等		グループワーク課題の内容（思考過程と計画内容）を評価する	講義（資料含む）・演習内容の範囲で出題する	授業に臨む姿勢、積極性などを総合的に判断する	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	中嶋 直ほか	「精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版」			中央法規出版	2020
	山根 寛	「精神障害と作業療法 新版」			三輪書店	2018
参考図書	富岡詔子ほか	「作業療法学全書 改訂第3版第5巻 作業治療学2 精神障害」			協同医書出版社	2017
履修要件等	精神機能作業療法評価学実習、臨床検査・測定実習を履修していることが望ましい					
研究室	1号館5階 第2共同研究室			オフィスアワー	木曜日 16：20～17：30	

※教科書①：朝田 隆ほか「精神疾患の理解と精神科作業療法 第2版」

教科書②：山根 寛「精神障害と作業療法 新版」

科目No.	SOT14-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	応用作業治療学実習		担当教員 E-Mail	武井 麻喜・水野 貴子 takeim@kawasakigakuen.ac.jp mizunot@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1 単位	前 期 (45h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院・施設での臨床経験が 20 年以上ある教員が、その経験を活かして、作業分析の基本的な知識と手法、治療への適用についての指導をする。さらに、生活行為向上マネジメントについての考え方と手法について実践を通して指導する。					
授業内容の要約	基礎作業療法学で学んだ知識を基にして、作業療法の臨床現場で用いられている作業活動を挙げてその特性とともに、種々の治療理論および疾患や症状に合わせた分析を実施する。その作業が用いられる場面や障害の程度による治療的な機能とその効果、能動的および受動的な効果、年齢や性別、気質による個人的効果など多面にわたり分析することで、個人の特性にあわせて作業活動を選択し適用することについて学修する。 また「生活行為向上マネジメント」の手法を学生間で実践実習していく。アセスメント、プランニング、実践を通し、作業は人を元気にすることを学修する。					
学修目標 到達目標	1. 種々の治療理論および疾患や症状に合わせた作業分析が実施できる 2. 個人の特性にあわせて作業活動を選択し治療に適用することができる 3. 「生活行為向上マネジメント」の概要を理解し説明できる 4. 対象者の“意味ある作業”を見つけ支援することの重要性について理解する					
対面授業の 進め方	前半は講義後に作業活動実習と分析、グループ討論を行う。 後半は学生同士がペアになって、お互いに生活行為向上プログラムの手法を実践していく。 「楽しく真剣に」取り組むこと。					
遠隔授業の 進め方						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 革細工：コースター①			復習：革細工についてのレポート作成			
2. 革細工：コースター②			復習：革細工についてのレポート作成			
3. 革細工：コースター③			復習：革細工についてのレポート作成			
4. 革細工：コースター④			復習：革細工についてのレポート作成、治療目的・方法の把握			
5. ネット手芸：小物入れ①			復習：ネット手芸についてのレポート作成			
6. ネット手芸：小物入れ②			復習：ネット手芸についてのレポート作成			
7. ネット手芸：小物入れ③			復習：ネット手芸についてのレポート作成			
8. ネット手芸：小物入れ④			復習：ネット手芸についてのレポート作成、治療目的・方法の把握			
9. あんでるせん手芸：かご①			復習：あんでるせん手芸についてのレポート作成			
10. あんでるせん手芸：かご②			復習：あんでるせん手芸についてのレポート作成			
11. あんでるせん手芸：かご③			復習：あんでるせん手芸についてのレポート作成、治療目的・方法の把握			
12. 輪なげ、ボール			復習：輪なげ、ボールの種類と治療目的・方法の把握			

13. セラプラスト、ペグボード				復習：セラプラストなどの種類と治療目的・方法の把握		
14. 生活行為向上マネジメントについて						
15. 「事前情報」「生活行為の目標」聞き取り						
16. 生活行為向上アセスメント演習シート						
17. 生活行為向上プラン演習シート						
18. 生活行為向上プログラムの実践①				生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること		
19. 生活行為向上プログラムの実践②				生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること		
20. 生活行為向上プログラムの実践③				生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること		
21. 生活行為向上プログラムの実践④				生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること		
22. 生活行為向上プログラムの実践⑤				生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること		
23. 生活行為向上プログラム終了時アセスメントと総括						
成績評価方法	項目	■課題 50 %	■レポート 40 %	□定期試験 %	■その他 10 %	
	基準等	後半、各シートの記載内容、実践記録内容、報告書内容を評価する。	前半、各作業活動毎にレポートを課し、与えられた課題を講義内容の視点と絡めて考察しているかを評価する。		前半、各作業活動の作品を提出。作成方法についての理解度を評価する。 後半、プログラムの実践状況（態度）を評価する。	
教科書		著者	タイトル		出版社	発行年
参考図書		浅沼辰志	「作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 作業学 第3版」		メジカルビュー社	2021
		濱口豊太 編集	「標準作業療法学 専門分野基礎作業学第3版」		医学書院	2017
		澤田雄二	「作業療法学全書 第2巻 基礎作業学 改訂第3版」		協同医書出版	2009
		(社)日本作業療法士協会	「作業療法マニュアル 66 生活行為向上マネジメント第3版」		(社)日本作業療法士協会	2018
		(社)日本作業療法士協会	「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第2版」		医歯薬出版	2021
履修要件等		「基礎作業学」「基礎作業分析学実習」「応用作業分析学実習」が履修済であることが望ましい。				
研究室		武井：1号館5階 第18研究室 水野：1号館4階 第5研究室		オフィスアワー	武井：毎週月曜日 12:10～13:00 水野：毎週水曜日 12:10～12:50	

科目No.	SOT15-3E		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	レクリエーション学 (OT)		担当教員 E-Mail	中村 俊介 nakamatsus@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		選択必修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	大阪 YMCA 青少年活動（3 年間）や大阪 YMCA 社会体育専門学校（8 年間）で海洋キャンプやスキーキャンプ、青少年活動などの勤務経験のある教員がその経験を生かして、臨床現場で実施されるレクリエーションを踏まえた講義を行う。					
授業内容の要約	精神科病院や介護老人保健施設、発達障害者支援施設などでは、レクリエーションを通して対象者の支援を行う場面がある。本講義では演習を交え、レクリエーション・プログラムの企画立案から指導の実践を通して、対象者理解、効果判定、安全への配慮などについて学修する。また、他者の運営するプログラムを客観的に評価する体験を通して、プログラム運営における留意事項の視点を理解する。					
学修目標 到達目標	1. 臨床現場で行われているレクリエーションのアクティビティの目的・効果を理解する 2. 目的に対する方法の在り方を理解する 3. 他者にとって分かりやすい説明ができるようになる					
対面授業の 進め方	・臨床現場で行われている様々なレクリエーション種目を体験する ・授業の中で参加者、指導者、評価者としての役割を担う ・履修学生が極端に少ない・多い場合は、実施種目を若干変更する ・記念講堂等、実施場所を変更することがある。筆記用具・バインダーを必ず持参する					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業で行うため、遠隔授業では実施しない 大学の「新型コロナウイルス感染拡大防止に関する行動指針」に合わせて実施時期を変更する					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. アクティビティの種類・目的・効果・プログラム構成				復習：レポートの作成		
2. 遊戯系レクリエーション①：歌遊び・指遊び・代返ゲーム・他				復習：レポートの作成		
3. 遊戯系レクリエーション②：鬼ごっこ・進化論ゲーム・他				復習：レポートの作成		
4. 認知系レクリエーション①：絵合わせ・釣り・他				復習：レポートの作成		
5. 認知系レクリエーション②：あいいうえおカード・卓上ゲーム・他				復習：レポートの作成		
6. 認知系レクリエーション③：デジタルゲーム				復習：レポートの作成		
7. スポーツ系レクリエーション①：体操・ターゲットゲーム				復習：レポートの作成		
8. スポーツ系レクリエーション②：個人スポーツ				復習：レポートの作成		
9. スポーツ系レクリエーション③：集団スポーツ				復習：レポートの作成		
10. レクリエーション企画案の作り方①：対象・目的・場所・効果・				復習：レポートの作成		
11. レクリエーション企画案の作り方②：評価の視点・実施上の留意点				復習：レポートの作成		
12. レクリエーション指導①：A グループ				復習：レポートの作成		
13. レクリエーション指導②：B グループ				復習：レポートの作成		
14. レクリエーション指導③：C グループ				復習：レポートの作成		
期 末 レ ポ ー ト						
15. 総括及びフィードバック（期末レポート解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	■レポート 50%	□定期試験 %	□その他 %	
	基準等	レクリエーションの指導 レクリエーションの評価	各講義内容のレポート			

教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	寺山 久美子 中村 春基	「レクリエーション 改定第3版」 活動と参加を促すレクリエーション		三輪書店	2004
参考図書					
履修要件等					
研究室	3号館2階 第26研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16：20～17：30	

科目No.	SRO02-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次	
授業科目名	地域作業療法学		担当教員 E-Mail	石川 健二 ishikawak@kawasakigakuen.ac.jp			
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間	
	作業療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		必 修	1 単位	前 期 (30h)	
教員の実務経験と 授業内容の関連	地域での予防医学リハビリテーションの経験のある教員が、その経験を生かして他職種との連携を通じた地域ケアシステムの知識と手法について講義する						
授業内容の要約	誰もが住み慣れた地域で安心して生活し続けるために、適宜適切なサービス提供を行う必要がある。保健・医療・福祉の仕組みとその実践について講義する。						
学修目標 到達目標	1. 地域ケアシステムの概要を理解し、各領域における相互作用を理解することができる 2. 地域での作業療法士が関わる具体的な支援策を理解することができる						
対面授業の 進め方	講義形式を中心として、適宜グループ演習なども加える。 担当教員が指定した講演会、研修会等への参加を授業出席として考慮する場合がある。						
遠隔授業の 進め方	Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。						
授業計画					授業時間外に 必要な学修	30 分以上	
1. オリエンテーション（地域ケアシステムの成り立ち：定義、歴史） pp3-19					予習として授業計画に記載している教科書の次回 予定頁の読了を求めます。 毎時間小テストを実施するので、前回授業範囲の 復習をしておくこと。		
2. 保健、医療、福祉、介護の領域別に分けた社会保障制度のしくみ pp19-46							
3. 発達、成人、老年期での世代別に分けた支援のしくみ pp19-46							
4. 在宅、医療、施設での生活圏域別に分けた支援のしくみ pp19-46							
5. 介護保険制度 pp47-58							
6. 障害者総合支援法 pp58-65							
7. ソーシャルサポートネットワーク pp66-74							
8. 他職種との協働 pp79-84							
9. 地域作業療法の実践① 支援プログラムとマネジメント pp114-140							
10. 地域作業療法の実践② 医療・介護施設・通所施設・訪問事業所 pp141-156							
11. 地域作業療法の展開① 作業療法地域包括ケアシステム pp161-225							
12. 地域作業療法の展開② 特別支援学校（発達）就労支援（精神・高次脳） pp226-270							
13. 地域作業療法の展開③ 地域移行支援（精神） 認知症対策 終末期支援 pp226-270							
14. 地域ケアにおける実践的な教育について（認知症サポーター養成講座）講座資料							
定期試験（期末レポート）							
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）							
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%		■レポート 20 %		■定期試験 70 %	■備考
	基準等	毎回授業にて前回講義分の小テストを課す		認知症サポーター研修及び、演習発表題材に関するレポートを課す		期末試験期間に筆記試験を課す。	レポート、授業態度など総合的に判定する。研修会参加を授業に振り替える。
教科書	著者		タイトル		出版社		発行年
	大熊 明		標準作業療法学 地域作業療法学		医学書院		2017
参考図書	講義内で担当教員から適宜紹介する						
履修要件等	2 年次までの作業療法評価学を履修していることが望ましい						
研究室	研究科棟 4 階 145 研究室			オフィスアワー	毎週木曜日 14:40～16:10		

科目No.	SRO03-3R		授業形態	演習	開講年次	3 年次
授業科目名	地域作業療法学演習		担当教員 E-Mail	石川 健二 ishikawak@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	地域での予防医学リハビリテーションの経験のある教員が、その経験を生かして他職種との連携を通じた地域ケアシステムの知識と手法について講義する					
授業内容の要約	グループ活動を通じて対象者のニーズを明らかにし、ケース検討、健康教育、地域づくりなどのテーマに沿ったプレゼンテーションを主とした演習を行う。					
学修目標 到達目標	1. 地域における作業療法士としての課題や問題点を抽出できる 2. 具体的支援策を熟考し議論できる 3. 健康に関する題材を発表できる					
対面授業の 進め方	講義形式を中心として、適宜グループ演習なども加える。地域作業療法学の講義と一体的に進める。臨床実習のため変則の時間割になると思われる。					
遠隔授業の 進め方	Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. オリエンテーション						
2 ～10 プレゼンテーション 例：ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、介護予防、ヘルスプロモーション、行動変容、環境生理学、精神領域の援助、就労支援、発達支援教育 等のテーマに沿った講義と演習				発表に際してのレジメ作成 スタッフとしての準備・調整		
11～14 グループ討議 発表内容に関する質疑応答 発表内容の評価				発表内容に関する質問を考えておく		
15. 総括及びフィードバック（全講義の振り返り）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	■レポート 20%	□定期試験 %	■その他 50%	
	基準等	発表に際してのレジメ作成。スタッフとしての準備・調整	発表用のレポート作成（前期：地域作業療法学からの課題）	無	担当教員が指定した講演会、研修会への参加を出席とする。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない					
参考図書	適宜 資料配布					
履修要件等	地域作業療法学を履修済					
研究室	研究科棟 4 階 145 研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 14:40～16:10		

科目No.	SCP05-3R		授業形態	実習	開講年次	3 年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅲ（OT）		担当教員 E-Mail	武井 麻喜・井上 貴雄 takeim@kawasakigakuen.ac.jp inouet@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必 修	1 単位	前期（30h）
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院で 10 年以上の臨床経験がある教員が、その経験を生かして臨床的な作業療法実習に関する必要な知識と手法について講義する。					
授業内容の要約	臨床総合実習Ⅰで求められる評価計画の立案及び目的に沿った様々な治療方法を知る。また、事例報告の記載方法や報告の方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 2 年次の臨床検査測定実習で得た情報や学んだ知識を全体で共有することができる。 2. 対象者に合わせた治療を適切に計画することができる。 3. 臨床総合実習Ⅰに向けて、知識・技術を自発的に習得しようと努めることができる。 4. 目的志向による実行する方法を身につけ自己管理能力を高めることができる。					
対面授業の 進め方	講義では、事例検討を中心にを行い、Active Learning（グループワーク、討論、発表）を行う。 授業時の遵守事項や単位認定方法等は初講日に説明するので、必ず確認すること。					
遠隔授業の 進め方	Teams により主にパワーポイントで視覚的に必要かつ重要なポイントを示しながら音声で解説を加える。適宜、課題を提示すると共に質問にも対応できる双方向の講義とする。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. オリエンテーション 臨床検査測定実習の振り返り、自己課題の確認				シラバス内容の確認		
2. レクリエーション 体育祭の準備				クラスの話し合いに参加し、意見を出し合		
3. 集団でのレクリエーション 体育祭				クラス全員が参加し、協調して取り組む		
4. アクティブラーニング課題の説明				授業の復習		
5、6. グループワーク（各疾患の治療方法）				クラスの話し合いに参加し、意見を出し合		
7、8. グループワーク（各疾患の治療方法）				クラスの話し合いに参加し、意見を出し合		
9. グループワーク（治療機会としてのレクリエーション活動の企画）				クラスの話し合いに参加し、意見を出し合		
10. グループワーク（治療機会としてのレクリエーション活動の発表）				クラスの話し合いに参加し、意見を出し合 う		
11. グループワーク（治療機会としてのレクリエーション活動の実技）				クラスの話し合いに参加し、意見を出し合		
12. 臨床総合実習Ⅰ前準備-1				実習先情報収集、事前学習(評価計画・治療		
13. 臨床総合実習Ⅰ前準備-2				実習先情報収集、事前学習(評価計画・治療		
14. 臨床総合実習Ⅰ前準備-3				夏期休暇中の実習準備勉強会		
定 期 試 験（原則として実施しない）						
15. 総括及びフィードバック（臨床総合実習Ⅰ 実習指導者会議準備）				臨床総合実習Ⅰ 準備の総まとめ、配布物		
成績評価方法	項目	□小テスト %	■レポート 50 %	□定期試験 %	■その他 50 %	
	基準等	グループワークにおけるプレゼンテーション内容をレポートの成績として評価する。		なし	レクリエーション活動の実技を 20%、学習態度を 30%として評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	大阪河崎リハビリテーション大学 作業療法学専攻 実習の手引き 第 5 版					
参考図書	講義内で担当教員から適宜紹介する					
履修要件等	「臨床実習指導Ⅱ」「臨床検査・測定実習」が履修済みであること。					
研究室	1 号館 5 階 第 18 研究室（武井） 1 号館 5 階 第 13 研究室（井上）		オフィスアワー	月曜日 12:10～13:00（武井） 木曜日 12:10～13:00（井上）		

科目No.	SCP08-1R		授業形態	講義	開講年次	3 年次	
授業科目名	臨床総合実習 I (OT)		担当教員 E-Mail	岸村 厚志 / 作業療法学専攻教員 kishimuraa@kawasakigakuen.ac.jp			
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間	
	作業療法学	臨床実習		必修	10 単位	後 期 (450h) 10 週間	
教員の実務経験と 授業内容の関連	臨床現場の実務経験を基に、実習学生が主体的に対象者の状態像に関する評価に対し、臨床実習指導者の監督・指導を受けながら、治療の実践並びに治療の効果判定を模倣できているかを臨床教育実習訪問指導にて臨床実習指導者とともに状況を把握し確認・指導する。また、学生が診療の一員として加わり、複数の症例に対し臨床評価から治療の実施の経験を通じて学ぶ診療参加型実習について説明し指導する。						
授業内容の要約	身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から 1 分野の施設にて臨床実習を実施する。臨床の場で対象者（児）の評価法を修得し、さらに治療計画の立案・治療実施を経験し作業療法士としての基本的な役割を実践する。						
学修目標 到達目標	1. 作業療法及び作業療法士の機能と役割について理解することができる 2. 対象者（児）の評価法を修得することができる 3. 治療計画を立案し、治療を実施することができる 4. 治療の結果を踏まえ、予後について考察することができる						
対面授業の 進め方	・実習にふさわしい服装で臨むこと ・一般社会常識、マナー、そして社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度に配慮すること。						
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信にて学内代替実習を行う。課題配信（症例の評価から治療計画と治療プログラムの立案と実施）の提示については、各担当教員からの連絡・指示があります。出席確認の方法は通信開始時に行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。						
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上	
・身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から 1 分野 9 週間の実習を実施する。さらに 1 週間は通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション分野での実習を行う。 ・対象者（児）の評価を修得し、さらに治療計画の立案・治療実施を経験し、作業療法士としての基本的な役割を実践・経験する。 ・治療結果を踏まえ予後予測について考察する。				評価法を予め修める。また、既存の症例報告書を基に評価・治療計画・治療実施の流れをレビューし、関連する文献や教科書を読んでおくこと			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	□定期試験 % ■その他 100 %	
	基準等					① 臨床総合実習 I 評定の結果 ② 臨床実習出席日数 ③ 実習内容（レジュメ、実習ノート、実習態度等） セミナーの参加状況から総合的に評価する	
教科書	著者	タイトル			出版社		発行
	臨床実習委員会編	「作業療法学専攻：実習の手引き」 第 4 版			大阪河崎リハビリテーション大学		2017
参考図書							
履修要件等	実習要件 3) を満たしていること						
研究室	各実習担当教員研究室			オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー参照		

科目No.	FCM08-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	形成外科学		担当教員 E-Mail	森下 寛史		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必 修	1 単位	後 期 (16h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	臨床経験のある教員が、その経験を活かして講義する。					
授業内容の要約	形成外科学の概要を、口腔外科学の観点から説明し、理解する。特に口腔、顎、顔面の構造、機能、疾患と言語障害、咀嚼障害および嚥下障害との関連を口腔外科学的な側面より知る。					
学修目標 到達目標	1. 形成外科、口腔外科の全体像を理解し把握する。 2. 形成外科、口腔外科を理解し、言語聴覚士との関わりを理解する。 3. 言語聴覚士国家試験に合格するための知識を習得する。					
対面授業の 進め方	ビデオ、視覚素材を用いて、講義を行う。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 口腔、顎、顔面の形態と構造 口腔の形態、構造、解剖について 口腔、顎、顔面の発生、発育			指定された範囲の教科書を予め読んでおくこと			
2. 口腔、顎、顔面の機能 a 咀嚼機能 b 嚥下機能						
3. 口腔、顎、顔面の機能 a 言語機能 b 口腔の診察法						
4. 歯・歯周組織の疾患、口腔ケア						
5. 口腔、顎、顔面の疾患 a 先天異常 (口唇裂、口蓋裂)、b 外傷他 c 炎症						
6. 嚢胞 , 腫瘍						
7. 唾液腺疾患、神経疾患						
8. 顎関節疾患、粘膜疾患、手術療法、再建と機能回復						
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 10%	■定期試験 80%	□その他 %	
	基準等	重要な部分の小テストをする	講義で不足部分はレポートにまとめてもらう	授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	道 健一	言語聴覚士のための臨床歯科医学 口腔外科学 第2版		医歯薬出版		
参考図書						
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FPS04-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	臨床心理学Ⅱ（S T）		担当教員 E-Mail	荒木 郁緒		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	心理学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	精神科病院や地域精神保健福祉での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、臨床心理の基本的な知識と手法についての考え方について実習を交えながら講義する。					
授業内容の要約	臨床心理学の理論やアプローチを通して、心理的観点からの対人理解を学ぶ。また对患者だけでなく、自身のストレスコーピングや多職種連携のコミュニケーションについても学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. “こころ”のあり方を理解することができる 2. 医療従事者として臨床心理学の知識を生かすことができる 3. 人と人との関係の中で何が起こり得るかについて、考え検討することができる					
対面授業の 進め方	レジュメや資料プリント配布による講義形式 (グループワーク・心理アセスメントの実習・描画技法を含む)					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信もしくは stream での動画配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. “リンショウシンリガク”とは？（臨床心理の歴史、制度、資格）			復習（レポートにまとめる）			
2. “話を聴く”とはどういうことか？（傾聴、受容、共感）			復習（レポートにまとめる）			
3. 無意識の発見（精神分析理論の歴史的変遷）			復習（レポートにまとめる）			
4. 人と人との間で起こること（転移・逆転移）			復習（レポートにまとめる）			
5. 認知行動療法に学ぶ技法			復習（レポートにまとめる）			
6. ナラティブセラピーに学ぶ技法			復習（レポートにまとめる）			
7. “いま・ここ”に注意を向ける（メンタライジング、イメージ）			復習（レポートにまとめる）			
8. 目の前の人をどうやって見立てるのか？（生涯発達の観点から）			復習（レポートにまとめる）			
9. “こころ”をどうやって見立てるのか？（心理検査、投影法など）			復習（レポートにまとめる）			
10. 正常と異常の狭間について（歴史、文化、制度）			復習（レポートにまとめる）			
11. こころの病の分類とアプローチ（統合失調症、双極性障害など）			復習（レポートにまとめる）			
12. こころの病の分類とアプローチ（人格障害、発達障害など）			復習（レポートにまとめる）			
13. グループワーク（描画体験）			復習（レポートにまとめる）			
14. グループワーク（事例検討）			復習（レポートにまとめる）			
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 0%	■レポート 30%	■定期試験 30%	■その他 40%	
	基準等		各授業の振り返りを提出物（レポート）で評価する。	定期試験にて、授業の理解度を評価する。	授業への参加度や受講態度等で評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
		レジュメや配布資料を用いて行う				
参考図書		必要に応じてその都度紹介				
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FPS05-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	心理測定法		担当教員 E-Mail	松尾 加代 matsuok@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	心理学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約			国試に必要な内容を中心に、心理学的測定法の基礎を学ぶ。手法や検査の種類だけではなく、それらの背後にある構成概念を学んでいく。			
学修目標 到達目標			1. 心理測定の目的を理解し、検査の種類と内容を知る 2. 心理測定で得られたデータを適切に分析し、正しく解釈するための基礎を学ぶ			
対面授業の 進め方			演習を適宜含めながら、講義形式で行う。毎講義後に、感想や質問の提出を求める。質問の回答および補足説明は、次の講義の最初に行う。			
遠隔授業の 進め方			やむを得ず遠隔授業になった場合は、Microsoft office 365 の stream を使用して動画を配信する。動画視聴後、指定された課題を実施・提出する。			
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. イントロダクション：心理測定とは			授業内容の復習			
2. 尺度：名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度			〃			
3. 測定法：観察法、面接法、検査法、調査			〃			
4. 信頼性と妥当性			〃			
5. 標準化とサンプリング			〃			
6. 精神物理学的測定法：調整法、恒常法、極限法、ME 法			〃			
7. 心理尺度構成法：評定尺度法、順位法、一対比較法			〃			
8. 誤差：恒常誤差、測定誤差			〃			
9. 知能テスト：WAIS			〃			
10. 性格・人格テスト：質問紙法、投影法			〃			
11. 記述統計：代表値			〃			
12. 推測統計：パラメトリック検定			〃			
13. 推測統計：ノンパラメトリック検定			〃			
14. 復習と総合演習（言語聴覚士国家試験）			〃			
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	授業内課題を呈示する。		定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者		タイトル	出版社	発行年	
	特に指定しない					
参考文献						
履修要件等		医療統計学を復習しておくこと				
研究室	1 号館 4 階 第 4 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 14：40 ～ 16：10		

科目No.	FSL03-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	音響学（含演習）		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博 umayaharak@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必 修	1 単位	前 期（30h）
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	ST の聴覚・構音に関する仕事を行う上で必要となる音響学の基本的概念を学ぶ。特に、(1) 波長 (2) dB (3) フォルマント (4) 音声知覚 (5) マスキング、が要点となる。					
学修目標 到達目標	1. 波長と周波数, dB の計算ができる 2. フォルマントおよび音声知覚の手がかりに関する説明ができる 3. デジタル音声処理に関する説明ができる					
対面授業の 進め方	なにか分からない点があれば、その場ですぐに質問をすること。 国試にも必須の内容なので、授業時間内に内容をきちんと理解すること。					
遠隔授業の 進め方	office365 teams を利用して、講義および実際の音のデモンストレーションなどを行いながら学習を進める。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 音とは何か（教科書 p.203）、単位の接頭辞			復習：授業の範囲をまとめる			
2. 音波の性質と波長・周期・周波数・音速（教科書 p.203）			復習：授業の範囲をまとめる			
3. 単振動と純音、音圧レベルと音の大きさのレベル（教科書 p.204）			復習：授業の範囲をまとめる			
4. dB の計算（dBSPL≠Pa）			復習：授業の範囲をまとめる			
5. 時間波形と周波数スペクトル(教科書 pp.204～205)			復習：授業の範囲をまとめる			
6. 音響管の共鳴(教科書 pp.205～206)			復習：授業の範囲をまとめる			
7. 音声生成の音響理論(教科書 pp.207～208)			復習：授業の範囲をまとめる			
8. デジタル信号処理(教科書 pp.208～209)			復習：授業の範囲をまとめる			
9. デジタル信号処理(教科書 pp.208～209)			復習：授業の範囲をまとめる			
10. サウンドスペクトログラム(教科書 pp.209～210)			復習：授業の範囲をまとめる			
11. サウンドスペクトログラム(教科書 pp.209～210)			復習：授業の範囲をまとめる			
12. 母音の音響特性と知覚(教科書 p. 210)			復習：授業の範囲をまとめる			
13. 子音の音響特性と知覚(教科書 pp.210～211)			復習：授業の範囲をまとめる			
14. 超分節的要素の音響特徴と知覚(教科書 p.212)			復習：授業の範囲をまとめる			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%	□その他 %	
	基準等			筆記試験により授業内容全般についての理解を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	大森孝一ほか	「言語聴覚士テキスト 第3版」		医歯薬出版		2018
参考図書	吉田 友敬	「言語聴覚士の音響学入門 2訂版」		海文堂出版		2020
	今泉 敏	「言語聴覚士のための音響学」		医歯薬出版		2007
	青木 直史	「ゼロからはじめる音響学」		講談社		2014
履修要件等	聴覚心理学・聴覚検査等の授業内容および指数計算の方法を復習しておくこと					
研究室	1 号館 5 階 第 19 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12：10～13：00		

科目No.	SGR01-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	研究法 (ST)		担当教員 E-Mail	上田 有紀人 / 言語聴覚学専攻教員 ueday@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	卒業研究		必修	1 単位	前 期 (16h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	各教員が、自身の実務経験に沿った内容を研究テーマとする学生を担当し、卒業研究を指導する。					
授業内容の要約	臨床経験を積み上げる過程において、患者様に対して評価や訓練、また病変と症状との関係性など様々な疑問や問題に直面します。これは医学分野においても同様です。それら疑問や問題を解決していく過程において「研究法」は重要な位置付けとなります。本講義では、言語聴覚研究を進める上での、研究の特徴・研究の種類や方法・文献検索方法、研究データを取り扱う上での倫理的配慮に関して、事例なども呈示しながら講義を進めます。その後、卒業研究指導教員のもとで、研究テーマに沿って卒業研究を行います。					
学修目標 到達目標	1. 言語聴覚臨床における研究の意義、目的について説明できる。 2. 研究の種類・実証方法を説明できる。 3. 研究テーマの設定・計画・成果を報告できる。					
対面授業の 進め方	前半 6 回は講義形式を主にディスカッションも交えながら進める。 後半 2 回は研究テーマに沿って各教員別に指導を受ける。					
遠隔授業の 進め方	各講義内容に沿った解説資料と課題を毎回各受講者に送信する。各自がその課題に取り組んだ結果を期日までに担当教員に送信する。その送信内容で理解度を評価し、また各講義への出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 言語聴覚障害学における研究 (EBM・EBP など)			講義の内容を復習しノートにまとめる。			
2. 研究のデザインの基礎			講義の内容を復習しノートにまとめる。			
3. 研究における実証の方法、倫理的配慮			講義の内容を復習しノートにまとめる。			
4. 研究計画の進め方 (テーマの設定・立案など)			講義の内容を復習しノートにまとめる。			
5. 研究成果の方法 (抄録・学会発表、論文の書き方)			講義の内容を復習しノートにまとめる。			
6. まとめ・研究テーマの決定・1～5 までの総括、小テスト			講義の内容を復習しノートにまとめる。			
7. 卒業研究演習【指導教員別に指導のもとで計画に沿って研究を進める】①			実験、調査、文献検索などを行う。			
8. 卒業研究演習【指導教員別に指導のもとで計画に沿って研究を進める】②			実験、調査、文献検索などを行う。			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	□定期試験 70% □その他 30%
	基準等					1～6は、科目担当教員が評価する。 7～8は、卒業研究の指導教員が評価する。
教科書	著者		タイトル		出版社	発行年
参考図書	深浦順一・植田恵		言語聴覚療法評価・診断学		医学書院	2020 年
	福原俊一		臨床研究の道標・第2版 (上下巻)		iHope International	2017 年
履修要件等						
研究室	1 号館 5 階 第 16 研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12:10～13:00		

科目No.	SDS03-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次			
授業科目名	言語聴覚障害診断学		担当教員 E-Mail	高橋 泰子 ・ 上田 有紀人 takahashiy @kawasakigakuen.ac.jp					
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間			
	言語聴覚学	障害学総論		必 修	1 単位	後 期 (30h)			
教員の実務経験と 授業内容の関連	臨床経験のある教員が臨床現場の現況に即した対応の仕方を解説する。また、OSCE では、病院勤務の言語聴覚士からの評価と指導を受ける。								
授業内容の要約	臨床評価実習に向けての準備								
学修目標 到達目標	1. 臨床評価実習までに社会人・医療従事者としてのマナーや態度を修得する 2. 専門用語を使って簡潔に記録が書ける 3. 基礎的な知識を理解し説明できる 4. 患者様に対する話し方や態度を修得する								
対面授業の 進め方	授業は、講義形式と演習形式がある。学生同士で練習することがあるので、欠席する場合は必ず連絡を事前に入れること。また、演習を行うときは、身体・口腔は清潔に保ち、動きやすい服装、タオルを用意されたい。								
遠隔授業の 進め方	臨床評価実習ならびに OSCE に向けての評価の練習を行うため、規定の時間割とは異なった自主的練習を行うこと。また、臨床実習に向けての記録やレポートの書き方、実習生としての礼節等についても平素から気を付けて行動されたい。								
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上				
1. ガイダンス									
2. 感染対策—院内感染、清潔・不潔			手洗いの仕方 予習						
3. 移乗			車椅子の仕組み、操作方法 予習						
4. 血圧測定			バイタルチェックの練習 予習						
5. アサーション・トレーニング									
6. 医療面談									
7. スクリーニング検査			失語症関連のスクリーニング検査の練習						
8. スクリーニング検査			改訂水飲み検査の練習						
9. OSCE①			SLTA の練習						
10. OSCE①			小児のスクリーニング検査の練習						
11. 記録の書き方			運動性構音障害のスクリーニング検査						
12. 記録の書き方			神経心理学諸検査の練習						
13. 臨床実習の管理・運営（リスク管理、インフォームドコンセント、			神経心理学諸検査の練習						
14. OSCE②			神経心理学諸検査の練習						
15. OSCE②									
16. OSCE のフィードバック									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	10%	□定期試験	%	■その他	90%
	基準等			OSCE後に自己フィードバックしたレポートを評価する。				OSCE(客観的臨床能力試験)を2回実施する。	
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年		
	大阪河崎リハビリテーション大学	実習の手引き 言語聴覚学専攻					2017		
	平野哲雄他 編著	「言語聴覚療法臨床マニュアル 第3版」			協同医書出版社		2014		
参考図書									

履修要件等	臨床基礎実習の単位取得をしておくこと。		
研究室	1号館5階 第17研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 10:40～12:10

科目No.	SHB02-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	失語・高次脳機能障害学Ⅱ		担当教員 E-Mail	塚本 能三 tsukamotoy@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	高次脳機能障害学		必 修	2 単位	前 期 (60h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	多くの病院等において実務経験と研究経験のある言語聴覚士の授業により、失語症について、基本的理解と検査方法などの基本的能力を身に付けさせる。					
授業内容の要約	失語症候群の基本概念・症状を理解し、評価・診断の理論・方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 失語症患者に対する言語聴覚士としての基本的役割を理解することができる 2. 病巣と失語症の関連を解剖生理学的に理解することができる 3. 失語症候群の基本概念・症状を理解し、評価・診断をすることができる					
対面授業の 進め方	教科書、その他文献をまとめたレジュメに基づき講義をすすめる。予習・復習は必ず行うこと。授業態度は評価対象とする。録画、録音による視聴覚データから、症状分析、訓練立案をグループ編成による、ディスカッション等により行う。必要な知識は小テストで確認する。その他、演習、osce を実施する。授業外での検査練習は必須である。					
遠隔授業の 進め方	Teams、ストリーム、課題配信等					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 失語症とは			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
2. 失語症の症状について			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
3. 失語症の周辺症状について			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
4. 自由会話からの失語症状の読み取り			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
5. 失語症の類型①			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
6. 失語症の類型②			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
7. 原発性進行性失語			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
8. 失語症とロゴジェンモデル			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
9. 失語症と脳解剖			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
10. 失語症と画像診断			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
11. 失語症と随伴症状（合併する高次脳機能障害）			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
12. 失語症と保続			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
13. 失語症の評価（スクリーニング検査）			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			

14. 失語症の評価 (SLTA「聴く」)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
15. 失語症の評価 (SLTA「話す」)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
16. 失語症の評価 (SLTA「読む」)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
17. 失語症の評価 (SLTA「書く」)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
18. 失語症の評価 (SLTA プロフィールの読み取り①)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
19. 失語症の評価 (SLTA プロフィールの読み取り②)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
20. osce(自由会話とスクリーニング検査)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
21. osce(自由会話とスクリーニング検査)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
22. osce(自由会話と SLTA)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
23. osce(自由会話と SLTA)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
24. 失語症掘り下げ検査①	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
25. 失語症掘り下げ検査②	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
26. 日常コミュニケーション能力改善への方略	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること				
27. 失語症のデイリーの書き方①	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること				
28. 失語症のデイリーの書き方②	デイリーを自宅で完成させて提出する。				
29. 失語症のデイリーの書き方③	デイリーを自宅で完成させて提出する。				
定期試験					
30. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 15%	■ osce 10%	■定期試験 70%	■その他 5%
	基準等	授業内で指示するデイリー・小テストの結果	検査の理解度、施行法等を評価する。	授業の内容全般についての理解度	受講態度
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	藤田郁代 (監修)	標準言語聴覚障害学「失語症学第3版」		医学書院	2021
参考図書	種村純 (編著)	失語症 Q&A 検査結果のみかたとリハビリテーション		新興医学出版社	2014
履修要件等					
研究室	言語聴覚学専攻長室		オフィスアワー	毎週水曜日 14：40～16：10	

科目No.	SHB03-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	失語・高次脳機能障害学Ⅲ		担当教員 E-Mail	塚本 能三 tsukamotoy@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	高次脳機能障害学		必 修	2 単位	後 期 (60h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	実務経験と研究経験のある言語聴覚士の授業により、失語症の言語治療、および高次脳機能障害に対する具体的検査方法などの基本的能力を身に付けさせる。					
授業内容の要約	失語・高次脳機能障害学Ⅰ・Ⅱを基に、評価・診断・リハビリテーションの理論・方法を学ぶ					
学修目標 到達目標	1. スクリーニング検査を実施し、評価することができる 2. 失語症検査を実施し、評価することができる 3. 高次脳機能検査を実施し、評価することができる					
対面授業の 進め方	教科書、その他文献をまとめたレジュメに基づき講義をすすめる。録画、録音による視聴覚データから、症状分析、訓練立案をグループ編成による、ディスカッション等により行う。必要な知識は小テストで確認する。その他、演習、osce を実施する。授業外での検査練習は必須である。					
遠隔授業の 進め方	Teams、ストリーム、課題配信等					
授業計画			授業時間外に必要な学修			60 分以上
1. 失語症の評価演習（スクリーニング検査）			予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること			
2. 失語症の評価演習（標準失語症検査プロフィールの読み取り①）			予習：失語症の種類、症状を把握しておく。 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
3. 失語症の評価演習（標準失語症検査プロフィールの読み取り②）			予習：失語症の種類、症状を把握しておく。 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
4. 失語症の評価演習（標準失語症検査プロフィールの読み取り③）			予習：失語症の種類、症状を把握しておく。 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
5. 失語症の評価演習（実用コミュニケーション能力検査）			予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること			
6. 失語症の評価演習（その他掘り下げ検査）			予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること			
7. 失語症の治療理論			予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること			
8. 失語症の訓練立案、短期目標と長期目標			予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること			
9. 失語症の言語治療（治療理論に基づく訓練法）			予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること			
10. 失語症の言語治療（P A C E）			予習：osce に備える。 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること			
11. 失語症の言語治療（標準失語症検査 osce）			予習：osce に備える。 復習：フィードバックされたことを把握する。			
12. 失語症の言語治療（標準失語症検査 osce）			予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：フィードバックされたことを把握する。			
13. 高次脳機能障害の評価と治療（注意障害：全般性注意について）			予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること			
14. 高次脳機能障害の評価と治療（注意障害：全般性注意について）			予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること			

15.	高次脳機能障害の評価と治療（注意障害：方向性注意（半側空間無視①）について）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
16.	高次脳機能障害の評価と治療（注意障害：方向性注意（半側空間無視②）について）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
17.	高次脳機能障害の評価と訓練（遂行機能障害）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
18.	高次脳機能障害の評価と訓練（その他前頭葉症状について）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
19.	高次脳機能障害の評価と訓練（脳梁離断症状①）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
20.	高次脳機能障害の評価と訓練（脳梁離断症状①）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
21.	高次脳機能障害の評価と訓練（記憶障害①）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
22.	高次脳機能障害の評価と訓練（記憶障害②）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
23.	高次脳機能障害の評価と訓練（記憶障害③）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
24.	高次脳機能障害の評価と訓練（失認①）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
25.	高次脳機能障害の評価と訓練（失認②）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
26.	高次脳機能障害の評価と訓練（地誌的見当識障害と後方病巣により生じる障害）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
27.	認知症の評価とアプローチ①	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
28.	認知症の評価とアプローチ②	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
29.	認知症の評価とアプローチ③	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
定期試験（期末レポート）					
30. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 15%	■osce 10%	■定期試験 70%	■その他 5%
	基準等	授業内で指示する課題・小テストの結果	検査の理解度、施行法等を評価する。	授業の内容全般についての理解度	受講・演習取り組み態度
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	種村純（編）	失語症 Q&A 検査結果のみかたとリハビリテーション		新興医学出版社	2014
	藤田郁代（編）	高次脳機能障害学第3版		医学書院	2021
参考図書	伊藤元信（編）	言語治療ハンドブック		医歯薬出版	2019
履修要件等					
研究室	言語聴覚学専攻長室			オフィスアワー	毎週水曜日 14：40～16：10

科目No.	SLD04-3R		授業形態	演習	開講年次	3 年次
授業科目名	言語発達障害治療学Ⅱ (含演習)		担当教員 E-Mail	高橋 泰子 takahashiy@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	言語発達障害		必 修	2 単位	前 期 (60h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	担当教員は、保育所、幼稚園、小・中・特別支援学校において巡回相談を行っている。そこで出会う発達に障害のある子どもたちの評価や指導について説明を行う。					
授業内容の要約	知的能力障害、自閉スペクトラム症および周辺領域の発達障害（特異的言語発達障害、ADHD など）の発達障害の検査、評価、支援法について解説する					
学修目標 到達目標	1. 発達障害の実際を理解できる 2. 発達障害の心理・教育的検査が正しく実施できる 3. 発達障害の心理・教育的検査の結果、診断と評価ができる 4. 診断と評価をもとに具体的な支援策を考察することができる					
対面授業の 進め方	子どもの発達の問題点を明確にしていく各種心理・教育的検査の演習を行う。各検査は概要、実施手順を説明した後、演習を行い、検査結果から問題点の抽出、評価、訓練プログラムの立案を行う。何度も繰り返し練習するのが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	子どもの発達の問題点を明確にしていく各種心理・教育的検査の演習を行う。各検査は概要、実施手順を説明した後、演習を行い、検査結果から問題点の抽出、評価、訓練プログラムの立案を行う。何度も繰り返し練習するのが望ましい。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 言語発達障害学Ⅱの復習、言語病理学的診断				復習ならびに検査の練習を行うこと		
2. 言語発達障害学Ⅱの復習、言語病理学的診断				復習ならびに検査の練習を行うこと		
3. 国リハ式＜S-S 法＞言語発達遅滞検査の概論・解説				復習ならびに検査の練習を行うこと		
4. 国リハ式＜S-S 法＞言語発達遅滞検査の解説・演習				復習ならびに検査の練習を行うこと		
5. 国リハ式＜S-S 法＞言語発達遅滞検査の解説・演習				復習ならびに検査の練習を行うこと		
6. 国リハ式＜S-S 法＞言語発達遅滞検査の解説・演習				復習ならびに検査の練習を行うこと		
7. 国リハ式＜S-S 法＞言語発達遅滞検査による診断と支援方法				復習ならびに検査の練習を行うこと		
8. 国リハ式＜S-S 法＞言語発達遅滞検査による診断と支援方法				復習ならびに検査の練習を行うこと		
9. 心理・教育的診断と評価の方法 KABCⅡの概論・解説				復習ならびに検査の練習を行うこと		
10. 心理・教育的診断と評価の方法 KABCⅡの概論・解説				復習ならびに検査の練習を行うこと		
11. 心理・教育的診断と評価の方法 KABCⅡの解説・演習				復習ならびに検査の練習を行うこと		
12. 心理・教育的診断と評価の方法 KABCⅡの解説・演習				復習ならびに検査の練習を行うこと		
13. KABCⅡによる診断と支援方法				復習ならびに検査の練習を行うこと		
14. KABCⅡによる診断と支援方法				復習ならびに検査の練習を行うこと		
15. 心理・教育的診断と評価の方法 新版 K 式発達検査の概論・解説				復習ならびに検査の練習を行うこと		
16. 心理・教育的診断と評価の方法 新版 K 式発達検査の概論・解説				復習ならびに検査の練習を行うこと		
17. 心理・教育的診断と評価の方法 新版 K 式発達検査の解説・演習				復習ならびに検査の練習を行うこと		
18. 心理・教育的診断と評価の方法 新版 K 式発達検査の解説・演習				復習ならびに検査の練習を行うこと		
19. 新版 K 式発達検査による診断と支援方法				復習ならびに検査の練習を行うこと		
20. 新版 K 式発達検査による診断と支援方法				復習ならびに検査の練習を行うこと		
21. 心理・教育的検査法の概説（CARS、DN-CAS、田中ビネー、ITPA 等）				復習ならびに検査の練習を行うこと		
22. 心理・教育的検査法の概説（CARS、DN-CAS、田中ビネー、ITPA 等）				復習ならびに検査の練習を行うこと		
23. 言語発達障害児・知的障害児の支援方法（INREAL 等）				復習ならびに検査の練習を行うこと		

24. 言語発達障害児・知的障害児の支援方法（INREAL 等）			復習ならびに検査の練習を行うこと		
25. 自閉症児の支援方法（TEACCH、SCERTS モデル等）			復習ならびに検査の練習を行うこと		
26. 自閉症児の支援方法（TEACCH、SCERTS モデル等）			復習ならびに検査の練習を行うこと		
27. 発達障害児の言語聴覚訓練（ソーシャルスキルトレーニング等）			復習ならびに検査の練習を行うこと		
28. 発達障害児の言語聴覚訓練（ソーシャルスキルトレーニング等）			復習ならびに検査の練習を行うこと		
29. 保護者への指導（ペアレントトレーニング等）			復習ならびに検査の練習を行うこと		
定期試験（期末レポート）					
30. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 90 %	■その他 10%
	基準等			授業・演習の理解を評価する。	授業・演習の参加態度、を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	藤田郁代監修 玉井ふみ・深浦順一編	「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版」		医学書院	2021
参考図書	小野次朗他編著	「よくわかる発達障害」		ミネルヴァ書房	2007
履修要件等	「言語発達障害学Ⅱ」が履修済みであることが望ましい。				
研究室	1号館5階17研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 10:40～12:10	

科目No.	SOS01-3R		授業形態	演習	開講年次	3 年次
授業科目名	音声障害学		担当教員 E-Mail	上田 有紀人 ueday@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験がある教員が、その経験を生かして、音声障害の基本的な知識と病態や訓練について講義する。					
授業内容の要約	発声器官の解剖・生理、発声のメカニズムを理解する。音声障害をもたらす疾患、発生機序、病態を学び、音声障害に関する検査、評価、訓練法、薬物治療、手術的アプローチについて学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 発声器官の解剖・生理、発声のメカニズムが理解できる 2. 音声障害の原因・発生機序・病態が理解できる 3. 音声障害の評価・訓練ができる 4. 無喉頭者の代用音声の理解と訓練法ができる					
対面授業の 進め方	座学と実技を行う。様々なテーマに対して、グループ討論・プレゼンテーションを実施し考察を深める。実習や臨床場面を想定して、種々の障害像について理解し、評価・訓練の演習を行う。特に様々な音声障害のリハビリテーションの実技は積極的な態度が望まれる。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 声の特性・物理的特徴			声の 4 つの特性と喉頭の調節について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
2. 発声発語器官の解剖・生理			声に関わる器官の解剖や発声の生理について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
3. 音声治療における言語聴覚士の役割			耳鼻咽喉科医師との連携について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
4. 音声障害の原因疾患			器質性や神経学的、機能性の音声障害について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
5. 検査・評価（喉頭観察機器）			音声障害の診断に用いる喉頭の観察機器について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
6. 検査・評価（聴覚心理学的検査）			GRBAS 尺度について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
7. 検査・評価（発声機能検査・音響分析）			発声機能検査や音響分析について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
8. 音声治療の原理			運動学習理論と神経可逆性の原理について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
9. 音声訓練の実際			間接訓練と直接訓練について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
10. 声の衛生指導			声の衛生指導について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
11. 心因性発声障害・痙攣性発声障害の理解			心因性・痙攣性発声障害について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
12. 音声障害の薬物治療・音声障害の手術的アプローチ			音声障害の薬物療法や音声外科について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			

13. 気管切開と気管カニューレ		気管切開とカニューレについて事前に調べておく。 復習のために授業後にノートにまとめる。			
14. 喉頭摘出と無喉頭音声の理解と実際		喉頭摘出と無喉頭音声の種類について事前に調べておく。 復習のために授業後にノートにまとめる。			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 10%	■定期試験 70%	■その他 10%
	基準等	授業内に小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する。	レポートを授業で提示する。与えられた課題を講義内容と絡めて深く考察しているかどうかを評価する。	定期試験を実施する。 授業の内容全般についての理解度を評価する。 定期試験については、6割以上を合格とする。	出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。
教科書		著書	タイトル	出版社	発行年
		荻安誠ほか	「改訂音声障害」	建帛社	2012
参考図書		城本修ほか	「STのための音声障害診療マニュアル」	インテルナ出版	2008
		日本音声言語医学会	「新編 声の検査法」	医歯薬出版	2009
履修要件等		音声言語聴覚医学Ⅰ、Ⅱが履修済であることが望ましい。			
研究室		1号館5階 第16研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12:10～13:00	

科目No.	SOS02-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	成人系発話障害学 I		担当教員 E-Mail	和田 英嗣 wadahi@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害		必修	2 単位	前 期 (46h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院や訪問の臨床経験のある教員が、その経験を生かして、発話の生成メカニズムや運動障害性構音障害の症状、それらの評価・訓練について講義する。					
授業内容の要約	発声発語器官の解剖・生理、運動障害性構音障害（ディサースリア）をきたす疾患・発生機序・病態を理解し、種々の検査・評価・訓練法の習得を目指す。また補綴的手段、手術的アプローチ、拡大・代替コミュニケーションについて理解する。					
学修目標 到達目標	1. 発声発語器官の解剖・生理、構音のメカニズムが理解できる 2. 運動障害性構音障害の原因疾患・病態・タイプ分類が理解できる 3. 検査・評価・タイプ別訓練法の理解・技法ができる 4. 訓練プログラムの立案と実施ができる					
対面授業の 進め方	座学と実技を行う。発声発語のメカニズムを理解した上で、実技を交えながら検査の演習や訓練を実施していく。また、様々なテーマについて質疑応答やグループ討論を実施する。各講義の後半には振り返りのためにプリントを実施し、復習や試験勉強に活用してもらう。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 音声言語（話しことば）の生成について 発声発語器官の解剖・生理について			音声言語、発声発語器官の解剖・生理について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
2. 発話機構（呼吸・発声・構音）について			発話機構（呼吸・発声・構音）について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
3. ことばの音の性質について ことばの神経機構について			ことばの音の性質・神経機構について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
4. 構音障害の概要（声・構音・プロソディの障害）			構音障害の概要について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
5. 痙性・弛緩性ディサースリアについて			痙性・弛緩性ディサースリアについて事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
6. 運動失調性・運動低下性ディサースリアについて			運動失調性・運動低下性ディサースリアについて事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
7. 運動過多性・混合性ディサースリアについて			運動過多性・混合性ディサースリアについて事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
8. ディサースリアと摂食嚥下障害について			ディサースリアと摂食嚥下障害について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
9. 検査・診断・評価の流れ、問診および情報収集について スクリーニング検査について			検査・診断・評価の流れ、問診及び情報収集、スクリーニング検査について事前に調べておく。 授業後にノートにまとめる。			
10. ことばの音の評価、調音音声学的評価、発声発語器官の評価について			ことばの音の評価、発声発語器官の評価について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
11. 標準ディサースリア検査の概要			標準ディサースリア検査の概要について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			

12. 標準ディサースリア検査の演習	標準ディサースリア検査のマニュアルを参考に手順を練習する。				
13. 標準失語症検査補助テストの概要	標準失語症検査補助テストの概要について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
14. 標準失語症検査補助テストの演習	標準失語症検査補助テストのマニュアルを参考に手順を練習する。				
15. 機能訓練、タイプ別訓練法について	機能訓練、タイプ別訓練法について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
16. 粗大運動、構音動作、プロソディについて	粗大運動、構音動作、プロソディについて事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
17. 標準ディサースリア検査の実技試験	標準ディサースリア検査について事前に練習しておく。試験後に自ら振り返りを行う。				
18. 標準失語症検査補助テストの実技試験	標準失語症検査補助テストについて事前に練習しておく。試験後に自ら振り返りを行う。				
19. 実技試験のフィードバック	実技試験のフィードバックを振り返り、授業後にノートにまとめる。				
20. 国家試験対策	過去問について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
21. スクリーニング検査のフィードバック	スクリーニング検査の内容を振り返り、授業に修正する。実習までに再度確認する。				
22. まとめ、試験範囲のポイントについて	まとめ、試験範囲のポイントについて、授業後にノートにまとめる。				
定期試験（期末レポート）					
23. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 10%	■定期試験 70%	■その他 10%
	基準等	授業内に小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する。	与えられた課題を講義内容と絡めて深く考察しているどうかを評価する。	授業の内容全般についての理解度を評価する。定期試験については、6割以上を合格とする。	出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	廣瀬肇ほか	「言語聴覚士のための運動障害性構音障害学」		医歯薬出版	2001
参考図書	西尾正輝	「ディサースリア臨床標準テキスト」		医歯薬出版	2007
	熊倉勇実ほか	「運動障害性構音障害」改訂		建帛社	2009
履修要件等	音声言語聴覚医学Ⅰ、Ⅱが履修済であることが望ましい				
研究室	1号館5階第1共同研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 10：40～12：10	

科目No.	SOS03-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	摂食嚥下障害学（含演習）		担当教員 E-Mail	上田 有紀人・和田 英嗣 ueday@kawasakigakuen.ac.jp wadahi@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害		必修	2 単位	後 期（46h）
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院や施設、訪問での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、摂食嚥下の基本的な知識や症状、それらの評価や訓練について講義する。					
授業内容の要約	摂食嚥下に関わる諸器官と摂食・嚥下のメカニズム、及び摂食嚥下障害の原因疾患、種々の病態について理解し、摂食嚥下障害の評価・訓練、食事指導、摂食嚥下機能に影響を及ぼす要因（高次脳機能、薬剤、環境など）、他職種との連携について学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 摂食嚥下に関わる器官の解剖・生理・年齢的变化について理解できる 2. 摂食嚥下障害の原因、病態について理解できる 3. 種々の摂食嚥下機能検査について特性、適応、技法、解析方法を理解し、評価できる 4. 摂食嚥下障害の訓練や代償法について理解し、実施できる					
対面授業の 進め方	座学と実技を交えながら行う。また、グループ討論やプレゼンテーションを実施、様々なテーマについて考察し、実習や臨床場面での知識の活用に役立てる。実技では、鏡やペンライト・聴診器などを使用します。知識と技術の習得のため、積極的な授業態度が望まれる。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 摂食嚥下器官の解剖			摂食嚥下器官の解剖について事前に調べておく。 授業後にノートにまとめる。			
2. 摂食嚥下・呼吸機能の生理			摂食嚥下・呼吸機能の生理について事前に調べておく。 授業後にノートにまとめる。			
3. 摂食嚥下の神経機構			摂食嚥下の神経機構について事前に調べておく。 授業後にノートにまとめる。			
4. 摂食嚥下の年齢的变化			摂食嚥下の年齢的变化について事前に調べておく。 授業後にノートにまとめる。			
5. 摂食嚥下の症状 神経疾患の摂食嚥下障害			摂食嚥下の症状、神経疾患の摂食嚥下障害について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
6. 器質性の摂食嚥下障害 その他の摂食嚥下障害			器質性の摂食嚥下障害、その他の摂食嚥下障害について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
7. 摂食嚥下障害の合併症 言語聴覚士が単独で行える検査			摂食嚥下障害の合併症について事前に調べておく。 授業後にノートにまとめる。			
8. 言語聴覚士が単独で行える検査の実技練習			言語聴覚士が単独で行える検について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
9. 嚥下造影検査（VF）の概要と読影			嚥下造影検査について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
10. 嚥下内視鏡検査（VE）の概要と読影 その他の検査法			嚥下内視鏡検査、その他の検査法について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
11. 言語聴覚士が単独で行える検査の実技試験①			諸検査について事前に練習しておく。試験後に自ら振り返りを行う。			

12. 言語聴覚士が単独で行える検査の実技試験②			諸検査について事前に練習しておく。試験後に自ら振り返りを行う。		
13. 実技試験のフィードバック①			実技試験のフィードバックを振り返り、授業後にノートにまとめる。		
14. 実技試験のフィードバック②			実技試験のフィードバックを振り返り、授業後にノートにまとめる。		
15. 間接的嚥下訓練①			間接的嚥下訓練について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。		
16. 間接的嚥下訓練②			間接的嚥下訓練について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。		
17. 直接的嚥下訓練①			直接的嚥下訓練について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。		
18. 直接的嚥下訓練②			直接的嚥下訓練について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。		
19. 嚥下障害の手術的治療 代替栄養法			嚥下障害の手術的治療、代替栄養法について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。		
20. 気管切開とその管理 国家試験対策			気管切開とその管理について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。		
21. まとめ、試験範囲のポイントについて①			まとめ、試験範囲のポイントについて、授業後にノートにまとめる。		
22. まとめ、試験範囲のポイントについて②			まとめ、試験範囲のポイントについて、授業後にノートにまとめる。		
定期試験（期末レポート）					
23. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 10%	■定期試験 70%	■その他 10%
	基準等	授業内に小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する。	レポートを授業で提示する。与えられた課題を講義内容と絡めて深く考察しているどうかを評価する。	授業の内容全般についての理解度を評価する。定期試験については、6割以上を合格とする。	出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	倉智雅子	「言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学」		医歯薬出版	2013
参考図書	聖隷嚥下チーム	「嚥下障害ポケットマニュアル」		医歯薬出版	2018
	才藤栄一	「摂食嚥下リハビリテーション」		医歯薬出版	2016
履修要件等	音声言語聴覚医学Ⅰ、Ⅱ・口腔外科学・形成外科学・臨床神経学を履修していることが望ましい。				
研究室	1号館5階 第1共同研究室（和田） 1号館5階 第16研究室（上田）	オフィスアワー		毎週火曜日 10:40～12:10（和田） 毎週木曜日 12:10～13:00（上田）	

科目No.	SOS04-3R		授業形態	演習	開講年次	3 年次
授業科目名	小児系発話障害学Ⅰ		担当教員 E-Mail	高橋 泰子 takahashiy@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	構音障害の臨床を行っている。実際に行っている臨床の評価と指導について解説を行う。					
授業内容の要約	発声発語器官の機能、異常構音、構音検査、構音表記、構音障害の診断、指導法について学習する また、検査、表記、指導は具体的に実施できるまで習得する					
学修目標 到達目標	1. 構音検査を正しく実施できる 2. IPA を使って誤り構音が表記できる 3. 構音評価ができる 4. 構音指導ができる 5. 誤り構音が分析できる					
対面授業の 進め方	授業は、座学と演習をまじえて進める。 演習時には、鼻息鏡、ペンライト、手鏡を持参すること また、学生同士で練習するので、授業前に口腔内の清拭をしておくこと					
遠隔授業の 進め方	授業は、座学と演習をまじえて進める。 演習時には、鼻息鏡、ペンライト、手鏡を持参すること。 自分の口腔を見ながら演習するが、家族の協力が得られると望ましい。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 日本語構音の音声学 音声表記法			IPA の復習			
2. 日本語構音の音声学 音声表記法			IPA の復習			
3. 発声発語器官の形態・機能とその異常			頭頸部の機能解剖の復習			
4. 機能性構音障害の検査			「ことばのテストえほん」の検査練習			
5. 機能性構音障害の検査			「構音検査」の検査練習			
6. 機能性構音障害の検査			諸検査が実施できるように練習する			
7. 機能性構音障害の診断			構音障害の音声 CD を聴いて IPA で表記する			
8. 機能性構音障害の診断			構音障害の音声 CD を聴いて IPA で表記する			
9. 口腔機能の訓練法			訓練の実施練習			
10. 口腔機能の訓練法			訓練の実施練習			
11. 小児の構音障害児の指導			事例についての学習			
12. 小児の構音障害児の指導			事例について学習			
13. 小児の構音障害児の指導			事例について学習			
14. 教材作成法			時間内にできなかったものを完成させる			
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 90 %		■その他 10 %
	基準等			授業内容についての理解度を評価する。		授業への参加、理解を評価する。
教科書	著者		タイトル		出版社	発行年
	本間慎治編著		「機能性構音障害 改訂」		建帛社	2007
参考図書						
履修要件等	「音声学」「言語発達学」が履修済みであることが望ましい。日本語構音表記を IPA でできる。					
研究室	1 号館 5 階 第 1 7 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 10 : 40～12:10		

科目No.	SOS05-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	成人系発話障害学Ⅱ		担当教員 E-Mail	上田 有紀人・和田 英嗣 ueday@kawasakigakuen.ac.jp wadahi@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害		必修	1 単位	後 期（16h）
教員の実務経験と授業内容の関連	病院や訪問の臨床経験のある教員が、その経験を生かして頭頸部がんの概要や器質性構音障害の特徴、それらの評価・訓練について講義する。					
授業内容の要約	器質性構音障害の中でも成人の口腔・中咽頭がんの内容を中心に行う。頭頸部がんの患者に対して医師は当然だが歯科との連携も必要不可欠となってくるため、疾患と歯学的・補綴的治療に関する基礎的な知識と、ST として特化した知識・技術の両方を習得できるよう、演習を含めて講義する。					
学修目標 到達目標	1. 頭頸部がんの種類や治療内容が理解できる。 2. 器質性構音障害の病態・特徴が理解できる。 3. 検査・評価・訓練の理解・技法ができる。					
対面授業の 進め方	座学と実技を行う。実技を交えながら検査の演習や訓練を実施していく。また、様々なテーマについて質疑応答やグループ討論を実施する。各講義の後半には振り返りのためにプリントを実施し、復習や試験勉強に活用してもらう。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 器質性構音障害に関わる解剖と生理			器質性構音障害に関わる解剖と生理について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
2. 器質性構音障害の特徴			器質性構音障害の特徴について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
3. 器質性構音障害の評価			器質性構音障害の評価について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
4. 器質性構音障害の治療と訓練			器質性構音障害の治療と訓練について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
5. 症例検討①			器質性構音障害について復習しておく。授業後にノートにまとめる。			
6. 症例検討②			器質性構音障害について復習しておく。授業後にノートにまとめる。			
7. まとめ、試験範囲のポイントについて			まとめ、試験範囲のポイントについて、授業後にノートにまとめる。			
定 期 試 験 （ 期 末 レ ポ ー ト ）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 10%	■定期試験 70%	■その他 10%	
	基準等	授業内に小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する。	与えられた課題を講義内容と絡めて深く考察しているどうかを評価する。	授業の内容全般についての理解度を評価する。定期試験については、6割以上を合格とする。	出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	道 健一	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学—器質性構音障害 第2版	医歯薬出版	2016
参考図書	溝尻源太郎 熊倉勇美	口腔・中咽頭がんのリハビリテーション *構音障害、摂食・嚥下障害*	医歯薬出版	2000
履修要件等	「口腔外科学」「臨床歯科学」「形成外科学」が履修済みであることが望ましい。			
研究室	1号館5階 第1共同研究室（和田） 1号館5階 第16研究室（上田）	オフィスアワー	毎週火曜日 10:40 ～ 12:10（和田） 毎週木曜日 12:10 ～ 13:00（上田）	

科目No.	SOS06-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	小児系発話障害学Ⅱ		担当教員 E-Mail	高橋 泰子 takahashiy@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害		必修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	口唇口蓋裂に伴う構音障害の指導を行ってきた。その経験に基づき、本科目の授業を解説していく。					
授業内容の要約	器質性構音障害の中でも、小児の口唇裂・口蓋裂を伴った言語障害について解説する。 この疾患はチームアプローチが不可欠なため、疾患と医学的・補綴的治療に関する基礎的な知識と、 言語聴覚士として特化した技法・知識の両方を習得できるよう、演習を含めて講義を行う。					
学修目標 到達目標	1. チームアプローチのための基礎的な知識を習得することができる 2. 器質的構音障害の言語評価ができる 3. 器質的構音障害の言語臨床が行える					
対面授業の 進め方	座学と演習をまじえた講義を行う。また、小テストを頻回に実施する。 専門基礎分野の関係科目の知識と統合しながら受講すること。					
遠隔授業の 進め方	モニターを見ながら、実際に声を出したり、口腔を動かすなどの演習を一人でも行ってほしい。 また、歯科学、形成外科学等の専門基礎分野の復習をしておくのが望ましい。 登校した際に頭頸部模型を見て立体的な理解を促しておくことが望ましい。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 口蓋裂治療におけるチームアプローチ 2pp						
2. 口蓋裂の言語臨床に必要な基礎知識 18-21pp				前回の講義の復習（小テストを実施する）		
3. 口蓋裂の言語臨床に必要な基礎知識 18-21pp				前回の講義の復習（小テストを実施する）		
4. 口唇口蓋裂の発生機序 3-11pp				前回の講義の復習（小テストを実施する）		
5. 言語発達（構音・声）、構音障害の分類 23-35pp				前回の講義の復習（小テストを実施する）		
6. 構音障害の分類、構音障害の内容 23-35pp				前回の講義の復習（小テストを実施する）		
7. 言語臨床における検査・評価 36-48pp				前回の講義の復習（小テストを実施する）		
8. 言語臨床における検査・評価 36-48pp				前回の講義の復習（小テストを実施する）		
9. 外科治療・補綴治療・言語治療 50-63pp				前回の講義の復習（小テストを実施する）		
10. 外科治療・補綴治療・言語治療 50-63pp				前回の講義の復習（小テストを実施する）		
11. 口唇裂・口蓋裂を伴う疾患 69-71pp				前回の講義の復習（小テストを実施する）		
12. 訓練の方法				前回の講義の復習（小テストを実施する）		
13. 訓練の方法				前回の講義の復習（小テストを実施する）		
14. 過去の国家試験を解く				前回の講義の復習（小テストを実施する）		
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート %	■定期試験 90%	□その他 %	
	基準等	前回の授業内容の復習するための小テストを毎授業で実施する。		国家試験レベルの選択問題および記述式問題。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	斉藤裕恵ほか	「器質性構音障害」		建帛社		2003
参考図書	夏目長門編	「言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科学・口腔外科学」		医学書院		

履修要件等	「小児系発話障害学Ⅰ」「口腔外科学」「臨床歯科学」「形成外科学」が履修済みであることが望ましい。		
研究室	1号館5階 第17 研究室	オフィスアワー	水曜日 10:40～12:10

科目No.	SOS07-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	流暢性障害学		担当教員 E-Mail	高橋 泰子 ・ 久保田 功 takahashiy@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害		必 修	1 単位	後 期 (16h)
教員の実務経験と 授業内容の関連		吃音児の臨床経験がある教員が、症例の紹介をしながら非流暢性障害について解説する。				
授業内容の要約		吃音のメカニズムを理解し、検査、評価、治療法について知識と技術を学ぶ。 また、吃音の疑似体験と事例を通じて、吃音者が必要とする支援の在り方を考える。				
学修目標 到達目標		1. 吃音のメカニズムが説明できる。 2. 吃音の検査、評価ができる。 3. 治療法・支援法の立案ができる。 4. 吃音を包括的に理解し、適切な支援の在り方を立案できる				
対面授業の 進め方		前半は基礎的な学習（座学）と吃音の疑似体験（実験）を行う。 後半は事例を中心に、検査の選定、評価の仕方、支援の在り方について考える。				
遠隔授業の 進め方		前半は基礎的な学習（座学）と吃音の疑似体験（実験）を行う。実験は、各自で PC を用いて行う。 後半は事例を中心に、検査の選定、評価の仕方、支援の在り方について考える。				
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 吃音とは一定義、特徴、吃音の発生と原因論、分類、進展			過去の国家試験問題を解いて復習する			
2. 吃音の臨床の流れー検査、評価、情報収集、診断			過去の国家試験問題を解いて復習する			
3. DAF による吃音の疑似体験（演習）、訓練・治療法			DAF の実験データを分析・考察する			
4. 吃音臨床の実際：プロローグ						
5. 吃音臨床の実際：学童期・思春期の吃音			事例の評価・分析・訓練プログラムの立案			
6. 吃音臨床の実際：青年期・成人期の吃音			事例の評価・分析・訓練プログラムの立案			
7. 吃音臨床のワーク（演習）、吃音臨床を考える（ディスカッション）			事例の評価・分析・訓練プログラムの立案			
定 期 試 験 （ 期 末 レ ポ ー ト ）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート %	■定期試験 90%	□その他 %	
	基準等	演習のレポートを評価する		授業内容についての理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	小林宏明・川合紀宗編著	「シリーズきこえとことばの発達と支援 特別支教育における 吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援」			学苑社	2013
参考図書	松本治雄・後上鉄夫編著	「言語障害 事例による用語解説 第2版」			カンヤ出版	2000
	都築澄夫 編著	「言語聴覚療法シリーズ 改訂 吃音」			建帛社	2008
履修要件等		「言語発達学」「臨床心理学」が履修済みであることが望ましい。				
研究室	1 号館 5 階 第 17 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 10:40～12:10		

科目No.	SHD05-3R		授業形態	演習	開講年次	3 年次
授業科目名	補聴器・人工内耳（含演習）		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博 umayaharak@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害		必 修	1 単位	前 期（30h）
教員の実務経験と 授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、聴覚補償機器および福祉用具について授業を行う。					
授業内容の要約	補聴器の種類や原理、補聴器特性測定装置、フィッティング方法、人工内耳等について理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 補聴器のフィッティング方法について理解し、フィッティングができる 2. 補聴装用効果や補聴器特性の測定ができる 3. 人工内耳の原理や調整について理解できる					
対面授業の 進め方	講義と実際に補聴器を扱いながら、補聴器の調整や測定を行う。					
遠隔授業の 進め方	office365 teams を利用して、講義を行う。補聴器の調整や測定法については動画を利用する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 補聴器の構造・機能・種類と特徴（教科書 pp.130～134）			復習：授業範囲の内容をまとめる			
2. 補聴器の調整機能（教科書 pp.134～137）			復習：授業範囲の内容をまとめる			
3. 補聴器特性の測定法①（教科書 pp.138～140）			復習：授業範囲の内容をまとめる			
4. 補聴器特性の測定法②（教科書 pp.140～143）			復習：授業範囲の内容をまとめる			
5. 補聴器の付属品による調整（教科書 pp.137～138）			復習：授業範囲の内容をまとめる			
6. デジタル補聴器の機能（教科書 pp.144～145）			復習：授業範囲の内容をまとめる			
7. 補聴器のフィッティング演習①（教科書 pp.145～153）			復習：授業範囲の内容をまとめる			
8. 補聴器のフィッティング演習②（教科書 pp. 145～153）			復習：授業範囲の内容をまとめる			
9. 補聴器の適合評価（教科書 pp.153～154）			復習：授業範囲の内容をまとめる			
10. 人工内耳の基礎原理（教科書 pp.167～170）			復習：授業範囲の内容をまとめる			
11. 人工内耳のマッピング（教科書 pp.171～184）			復習：授業範囲の内容をまとめる			
12. 人工内耳のマッピング（教科書 pp.186～197）			復習：授業範囲の内容をまとめる			
13. その他の人工聴覚器（教科書 pp.162～166）			復習：授業範囲の内容をまとめる			
14. 補聴援助システム（教科書 pp.197～203）			復習：授業範囲の内容をまとめる			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%
	基準等					筆記試験により授業内容全般についての理解度を評価する。
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	中村ほか（編）	「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」第3 版			医学書院	2021
参考図書	小寺一興	「補聴器のフィッティングと適用の考え方」			診断と治療社	2017
	小川郁（監修）	「ゼロから始める補聴器診療」			中外医学社	2016
履修要件等						
研究室	1 号館 5 階 第 19 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12：10～13：00		

科目No.	SHD06-3R		授業形態	演習	開講年次	3 年次
授業科目名	聴覚障害治療学Ⅰ（含演習）		担当教員 E-Mail	廣瀬 宜礼		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害		必 修	1 単位	後 期（30h）
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	聴覚障害児へ（リ）ハビリテーションと係わりについて学ぶ。聴覚言語学習の指導法、各種コミュニケーション方法を用いた言語指導、養育指導などについて講義や演習を交えながら理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 小児聴覚障害の評価や診断に基づく（リ）ハビリテーションについて理解できる 2. 聴覚障害児の（リ）ハビリテーション計画を立案・実施（演習）できる 3. 指導教材や器具等を作成できる					
対面授業の 進め方	パワーポイントによる講義で教科書と配付資料を併用する。グループでケースの演習を行う。聴覚と小児の発達と耳鼻科領域の知識を復習しておく。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業を LIVE 配信にて、対面授業と同様の内容・形式で行う					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 聴覚障害児の聞こえと発達の確認と復習			復習を 30 分			
2. 聴覚障害児の評価とコミュニケーション 1			復習を 30 分			
3. 聴覚障害児の評価とコミュニケーション 2			復習を 30 分			
4. 聴覚障害児の評価とコミュニケーション 3			復習を 30 分			
5. 聴覚障害児の指導と支援 1			復習を 30 分			
6. 聴覚障害児の指導と支援 2			復習を 30 分			
7. 保護者支援（障害の受容）・母親法			復習を 30 分			
8. 訓練課題 1			復習を 30 分			
9. 訓練課題 2			復習を 30 分			
10. 発音指導と聴能指導			復習を 30 分			
11. 発音指導・訓練計画の立案 1			復習を 30 分			
12. 発音指導・訓練計画の立案 2			復習を 30 分			
13. 発音指導・訓練計画の立案 3			復習を 30 分			
14. 臨床の記録、評価			復習を 30 分			
15. 総括及びフィードバック（国家試験のポイントを見据える）						
成績評価方法	項目	□課題 70%	□レポート 30%	□定期試験 %	□その他 %	
	基準等	授業の内容についての理解度を評価する	与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する			
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	藤田郁代監修	「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」第3版		医学書院		2021
参考図書	立石 恒雄	言語聴覚士のための子どもの聴覚障害訓練ガイダンス		医学書院		2015
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	SHD07-3R		授業形態	演習	開講年次	3 年次		
授業科目名	聴覚障害治療学Ⅱ（含演習）		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博 umayaharak@kawasakigakuen.ac.jp				
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間		
	言語聴覚学	聴覚障害		必 修	1 単位	後 期（30h）		
教員の実務経験と 授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、成人聴覚障害者の支援方法について授業を行う。							
授業内容の要約	成人聴覚障害者の障害状況を知り、それぞれの生活の場での困難状況に即した対策を検討し、それぞれのゴールとしての社会参加にあわせた支援方法を考える。							
学修目標 到達目標	1. 成人聴覚障害者のリハビリテーションと障害対策について理解できる 2. 高齢難聴者の支援方法について理解できる							
対面授業の 進め方	講義と実技学習を交えながら進める。							
遠隔授業の 進め方	office365 teams を利用して、講義と実技学習を交えながら進める。							
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上			
1. 成人聴覚障害者のリハビリテーション（教科書 pp.221～223）			復習：授業の範囲をまとめる					
2. 成人聴覚障害者のニーズ（教科書 pp.221～223）			復習：授業の範囲をまとめる					
3. 障害対策支援：聴覚補償（補聴器①）（教科書 pp.223～228）			復習：授業の範囲をまとめる					
4. 障害対策支援：聴覚補償（補聴器②）（教科書 pp.223～228）			復習：授業の範囲をまとめる					
5. 障害対策支援：聴覚補償（補助機器・日常生活用具の活用）			復習：授業の範囲をまとめる					
6. 障害対策支援：コミュニケーション手段の拡大・代替（教科書 p.228）			復習：授業の範囲をまとめる					
7. 障害対策支援：コミュニケーションストラテジー・家族および周囲の対応や配慮の仕方（教科書 pp.229～232）			復習：授業の範囲をまとめる					
8. 障害対策支援：障害認識と障害受容への支援（教科書 pp.232～233）			復習：授業の範囲をまとめる					
9. 成人聴覚障害者の社会生活の支援①（教科書 pp.234～235）			復習：授業の範囲をまとめる					
10. 成人聴覚障害者の社会生活の支援②（教科書 pp.235～237）			復習：授業の範囲をまとめる					
11. 成人聴覚障害者の社会生活の支援③（教科書 pp.241～243）			復習：授業の範囲をまとめる					
12. 高齢難聴者の支援（教科書 pp.238～241）			復習：授業の範囲をまとめる					
13. 成人聴覚障害者の社会資源とその活用（教科書 pp.382～386）			復習：授業の範囲をまとめる					
14. 特異的な聴覚障害・重複障害（教科書 pp.342～354）			復習：授業の範囲をまとめる					
定 期 試 験								
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）								
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他	%
	基準等					筆記試験により授業内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年	
	中村ほか（編）	「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」第3版			医学書院		2021	

参考図書	山田弘幸	「改訂聴覚障害Ⅱ―臨床編」	健帛社	2008
	日本聴能言語士協会 講習会実行委員会	「アドバンス/コミュニケーション 障害の臨床 第7巻 聴覚障害」	協同医書	2002
	小川郁（監修）	「ゼロから始める補聴器診療」	中外医学社	2016
履修要件等				
研究室	1号館5階 第19研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12：10～13：00	

科目No.	SHD08-3R		授業形態	演習	開講年次	3 年次
授業科目名	視覚聴覚二重障害学（含演習）		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博 umayaharak@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害		必 修	1 単位	後 期（16h）
教員の実務経験と 授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、視覚聴覚二重障害者の障害、コミュニケーション、支援方法について授業を行う。					
授業内容の要約	視覚聴覚二重障害による特有のニーズを理解し、視覚聴覚二重障害者（児）のコミュニケーションと社会参加を支援する方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 視覚聴覚二重障害の障害原因について理解できる 2. 視覚聴覚二重障害者のコミュニケーションを含む生活上の困難とその軽減対策が理解できる 3. 視覚聴覚二重障害者のコミュニケーション手段について理解できる					
対面授業の 進め方	講義とコミュニケーション手段についての実技学習を行う。					
遠隔授業の 進め方	office365 teams を利用して、講義とコミュニケーション手段についての実技学習を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 視覚聴覚二重障害の定義と視覚聴覚二重障害者の実態（教科書 pp.354～355）				復習：授業の内容をまとめる		
2. 視覚について（視力障害、視野障害など）				復習：授業の内容をまとめる		
3. 視覚聴覚二重障害者の困難（教科書 pp.356～358）				復習：授業の内容をまとめる		
4. 視覚聴覚二重障害者のコミュニケーション手段および実習①（教科書 pp.358～360）				復習：授業の内容をまとめ、実技の復習をする		
5. 視覚聴覚二重障害者のコミュニケーション手段および実習②（教科書 pp.358～360）				復習：授業の内容をまとめ、実技の復習をする		
6. 視覚聴覚二重障害者の社会生活（移動介助体験含む）（教科書 p.361）				復習：授業の内容をまとめる		
7. 視覚聴覚二重障害児（教科書 pp.360～361）				復習：授業の内容をまとめる		
定 期 試 験						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%
	基準等					□その他 %
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	中村ほか（編）	「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」第3版		医学書院		2021
参考図書	全国盲ろう者協会	「盲ろう者への通訳・介助」		読書工房		2008
	東京盲ろう者友の会	「指点字ガイドブック」		読書工房		2012
履修要件等						
研究室	1 号館 5 階 第 19 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12：10～13：00		

科目No.	SRM02-3R		授業形態	講義	開講年次	3 年次
授業科目名	地域言語聴覚学		担当教員 E-Mail	和田 英嗣 wadahi@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	地域・予防医学的リハビリテーション		必修	1 単位	前 期 (16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院や訪問の臨床経験のある教員が、その経験を生かして地域リハビリテーションの特徴、様々な障害に対する評価・訓練について講義する。					
授業内容の要約	地域言語聴覚療法について理解し、その中での言語聴覚士の役割を習得する。種々の障害について ST としてどのように関わり、評価・訓練・環境調整を行っていくのかを理解する。					
学修目標 到達目標	1. 地域言語聴覚療法について理解ができる 2. 地域における連携やリスク管路ができる 3. 種々の障害について評価・訓練の理解ができる					
対面授業の 進め方	座学と討論を行う。地域言語聴覚療法について解説した後に、様々なテーマについて質疑応答やグループ討論を実施する。各講義の後半には振り返りのためにプリントを実施し、復習やレポート課題に活用してもらう。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 地域言語聴覚療法とは			地域言語聴覚療法について授業後に復習しノートにまとめる。			
2. 地域言語聴覚療法における連携と展開			地域言語聴覚療法における連携と展開について授業後に復習しノートにまとめる。			
3. 地域言語聴覚療法におけるサービス			地域言語聴覚療法におけるサービスについて授業後に復習しノートにまとめる。			
4. 症例検討①（失語症）			症例検討①（失語症）について授業後に復習しノートにまとめる。			
5. 症例検討②（ディサースリア）			症例検討②（ディサースリア）について授業後に復習しノートにまとめる。			
6. 症例検討③（摂食嚥下障害）			症例検討③（摂食嚥下障害）について授業後に復習しノートにまとめる。			
7. まとめ、レポートの書き方について			まとめ、レポートの書き方について授業後に復習しノートにまとめる。			
定 期 試 験 （ 期 末 レ ポ ー ト ）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 80%	□定期試験 %	■その他 10%	
	基準等	授業内に小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する。	与えられた課題を講義内容と絡めて深く考察しているどうかを評価する。	定期試験を実施しないため、レポートの達成度によって成績が判定される。	出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	藤田郁代	標準言語聴覚障害学 地域言語聴覚療法学		医学書院		2019

履修要件等	言語聴覚障害概論Ⅰ・Ⅱが履修済みであることが望ましい。		
研究室	1号館5階 第1共同研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 10：40 ～ 12：10

科目No.	SCP05-3R		授業形態	演習	開講年次	3 年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅲ		担当教員 E-Mail	高橋 泰子・上田 有紀人 takahashiy@kawasakigakuen.ac.jp ueday@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	言語聴覚士として臨床現場にて評価や訓練を行ってきた。その経験を活かして臨床現場に行くまでの基本的な知識や技能を解説する。					
授業内容の要約	臨床評価実習で必要となる基礎的な知識・技術が習得できる講義・演習を行う 専門基礎分野についてグループで学習する 言語聴覚療法に関する評価方法を演習しながら習得する					
学修目標 到達目標	1. 講義、情報検索、討論、ロールプレイ、演習、必要書類作成等を行う 2. 各種情報・検査結果を適切に解析・統合し、言語聴覚障害・摂食嚥下障害の病態、タイプ、重症度、訓練の必要性を判断し、訓練計画の立案までが理解できる 3. 臨床評価実習に必要な基礎的な知識・技術を修得する 4. 社会人・言語聴覚士としての基本的態度、実習・職務に対する意欲を持つ 5. 症例報告書の作成までの経緯が理解できる					
対面授業の 進め方	学生相互での講義、グループ演習を行う プレゼンを行うためにグループで協力して準備を進めること					
遠隔授業の 進め方	座学は遠隔授業で実施する。演習は、教室内が密にならないようにして各自で検査の練習を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 臨床評価実習の意義、目的、目標、期間、内容						
2. 実習に際する注意事項確認				医療従事者としての心得を復習		
3. 実習に際する注意事項確認				個人情報保護法、災害時の対応等の復習		
4. スポーツ活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク						
5. 国家試験出題基準の小項目に記載されている用語についての学習				専門用語の解説ノートの作成		
6. 国家試験出題基準の小項目に記載されている用語についての学習				専門用語の解説ノートの作成		
7. 情報収集演習、症例ビデオの解析、検査演習、グループ演習				考察を深め、レポートを作成する		
8. 検査演習				臨床実習に関連する検査の練習		
9. 検査演習				臨床実習に関連する検査の練習		
10. 検査演習				臨床実習に関連する検査の練習		
11. 検査演習				臨床実習に関連する検査の練習		
12. 検査演習				臨床実習に関連する検査の練習		
13. 検査演習				臨床実習に関連する検査の練習		
14. 検査演習				臨床実習に関連する検査の練習		
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				訓練プログラムの立案		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 50 %	□定期試験 %	■その他 50 %	
	基準等	グループ発表で用いる資料を評価する				演習態度を評価する
教科書	著者		タイトル		出版社	発行年
			※「大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻：実習の手引き」			

参考図書	平野哲雄他 編著	「言語聴覚療法 臨床マニュアル第3版」	協同医書出版社	2014
	廣瀬肇 監修	「言語聴覚士テキスト 第3版」	医歯薬出版	2018
履修要件等	「臨床基礎実習」の単位取得済みであること。			
研究室	1号館5階 第17研究室（高橋） 1号館5階 第16研究室（上田）	オフィスアワー	毎週水曜日 10:40～12:10（高橋） 毎週木曜日 12:10～13:00（上田）	

科目No.	SCP08-3R		授業形態	実習	開講年次	3 年次	
授業科目名	臨床評価実習		担当教員 E-Mail	高橋 泰子・上田 有紀人 takahashiy@kawasakigakuen.ac.jp ueday@kawasakigakuen.ac.jp			
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間	
	言語聴覚学	臨床実習		必 修	4 単位	後 期 (160h) 4 週間	
教員の実務経験と 授業内容の関連	5 年以上の臨床経験がある言語聴覚士が臨床現場において 4 週間の指導を行う。						
授業内容の要約	医療・介護・福祉・教育機関において、言語聴覚・摂食嚥下障害のある方の実態と言語聴覚士の業務内容を理解し、対象児・者のニーズ把握とその解決に必要な支援の方法を学ぶ						
学修目標 到達目標	1. 職務上必要な情報の収集・管理方法を修得する 2. 対象児・者について各情報や観察結果から、適切な検査を選択し実習指導者の下に施行できる 3. 各種情報・検査結果を適切に解析・統合し、言語聴覚障害・摂食嚥下障害の病態、タイプ、重症度、訓練の必要性を判断し、訓練計画の概要を立案できる 4. 他の言語聴覚士および医師をはじめとする関連職種に対して報告書を作成できる						
対面授業の 進め方	■実習日誌は、実習中毎日作成・提出し実習指導者の校閲・指導を受ける。実習終了時に一括して大学へ提出する ■実習終了時は症例・実習報告レポート等を作成し、指導言語聴覚士および大学に提出する						
遠隔授業の 進め方	臨床実習前後の指導は遠隔が行うが、臨床実習は臨床現場にて実施する。臨床実習期間の質問等はリモートで行う場合がある。臨床実習後の報告会はリモートで行い、一人 6 分の発表と 4 分の質疑応答の計 10 分間を持ち時間とする。						
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上	
【臨床評価実習】 ・医療・介護・福祉・教育機関において、実習指導者の下に観察・記録・検査・解析・統合を行い、言語聴覚障害・摂食嚥下障害の病態、タイプ、重症度、訓練の必要性を判断する ・短期・長期の訓練目標を設定し、訓練計画の概要を立案する ・言語聴覚士・関連職種に対して報告書を作成し、口頭でも説明する 【臨床評価実習報告会】 ・実習内容の記録、症例報告、目標に対する結果、考察、今後の課題等をレポートにまとめ、視聴覚資料を作成し、報告会で発表する ・相互の実習体験を共有し、臨床総合実習の基盤とする				実習前：臨床現場で必要なものを準備する 実習中：観察した症例の記録、不明な点は調べる 実習後：プレゼンテーションの準備			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	20 %	□定期試験 %	■その他 80%
	基準等			症例報告書 実習中の日誌 報告会用のレジュメ		臨床実習指導者による評価 報告会のプレゼン内容	
教科書	著者		タイトル		出版社	発行年	
			※「大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻：実習の手引き」				
参考図書	平野哲雄他編著		「言語聴覚療法 臨床マニュアル 第3版」		協同医書出版	2014	
	廣瀬肇 監修		「言語聴覚士テキスト 第2版」		医歯薬出版	2011	
履修要件等	実習要件 2) (履修の手引き参照) を満たさなければ履修できない						

研究室	1 号館 5 階 第 17 研究室（高橋）	オフィスアワー	毎週水曜日 10:40～12:10（高橋）
	1 号館 5 階 第 16 研究室（上田）		毎週木曜日 12:10～13:00（上田）